

 Extensis™
SuitcaseFusionTM4

ユーザーガイド

Windows版

コピーライト

©2005-2012 Celartem, Inc., doing business as Extensis. 本書ならびに本書に記載されているソフトウェアは著作権保護の対象であり、無断複写・複製・転載が禁止されています。本書または本書に記載されているソフトウェアの全部または一部を、Extensis の書面による承諾なしに複製することはできません。ただし、ソフトウェアの通常の利用やソフトウェアのバックアップ作成は除きます。この例外であっても他者に対する複製は許可されません。登録済みおよび申請中の米国特許に基づいてライセンス化されています。

Extensis は Extensis の商標です。Extensis のロゴ、Extensis Library、Font Reserve、Font Reserve Server、Font Sense、Font Vault、NetMediaMAX、Portfolio、Portfolio Server、Suitcase、Suitcase Fusion、Universal Type、Universal Type Client、Universal Type Core は Extensis の商標です。FontSync、NetPublish、Portfolio NetPublish、Type Server、Universal Type Server、WebINK は Extensis の登録商標です。Celartem、Celartem, Inc.、Celartem のロゴは、Celartem, Inc. の商標です。Adobe、Acrobat、Illustrator、InCopy、InDesign、Photoshop、PostScript、XMP は Adobe Systems, Incorporated の商標です。Apple、AppleScript、Bonjour、Bonjour ロゴ、Mac OS、QuickTime、QuickTime ロゴ、Universal ロゴ、Xsan は、Apple Inc. の登録商標です。Microsoft、Internet Explorer、SQL Server、Windows、Windows Vista は Microsoft Corporation の登録商標です。Intel、Intel Core、Pentium、Xeon は Intel の登録商標です。Oracle、Java は Oracle と関連会社の登録商標です。Google は Google Inc の商標です。Apache Tika、Apache Tomcat、Tomcat は Apache Software Foundation の商標です。Quark、QuarkXPress、XTensions、QuarkXTensions は、Quark Inc. の商標です。IBM、DataMirror、PowerPC は International Business Machines Corporation の商標です。その他全ての商標は各社が所有しています。

Extensis は、製品の購入日より 30 日間、通常の使用状況において、ソフトウェアが記録されているディスクに材質上および製造上の欠陥が無いことを保証します。製品を Extensis から直接購入し、30 日以内に障害が発生した場合、ディスクを Extensis に返送いただければ交換いたします。交換用に送付されたすべての製品は、交換の前に Extensis で登録する必要があります。販売店から購入した Extensis 製品は販売店によって保証され、販売店の返品規定の対象となります。この保証は交換に限定され、その他の損害を含みません。その他の損害には、利益の損失、特殊な要求、付随的な要求、その他の同様の要求などがありますが、これらに限定されるものではありません。本ソフトウェアは、「現状のまま」提供されます。上記の明示的な保証を除き、Extensis は、同梱のソフトウェアの品質、性能、商品性、または特定目的の適合性に関して、明示的または暗黙的を問わず他のいかなる保証もいたしません。

Suitcase Fusion 4 15.0.1

索引

コピーライト	2
Suitcase Fusion のインストールとアップグレード	6
システム環境	6
他のフォント管理ツールを使用停止にする	6
Suitcase Fusion 4 のインストール	7
Suitcase 11 for Windows からのアップグレード	7
Suitcase Fusion 4 をインストールしたら	10
Suitcase Fusion へようこそ	11
このバージョンの新機能	11
Suitcase Fusion とフォント管理の概要	12
フォントについて	13
外部のフォントライブラリに接続する	13
Suitcase Fusion のワークフロー	17
Suitcase Fusion の利点	17
Suitcase Fusion のインターフェイスについて	18
導入事例	20
サーバーベースのフォントソリューション	20
グラフィックデザイナー向けの導入事例	20
広告代理店または出版ワークグループ向けの導入事例	21
印刷会社向けの導入事例	22
ウェブデザイン向けの導入事例	23
Suitcase Fusion のセットアップ	24
セットアップクイックスタート	24
Font Vault	24
Font Vault を使う	25
フォントを元の場所から追加する	25
Microsoft Windows のシステムフォントの管理と取り扱い	26
アップデートの確認	26
ユーザーが無効にした警告ウィンドウの復元	26

Suitcase Fusion 4 のアンインストール	27
フォントの追加、削除、収集	28
フォントライブラリ	28
フォントの追加	29
フォントの問題を解決する	30
フォントを削除する	33
フォントを収集する	33
フォントを使用可能／使用不可にする	35
ライブラリの選択	35
フォントを使用可能にする	36
フォントを使用不可にする	37
フォントのアクティベーションについて	38
FMCore	39
フォントの並べ替えと検索	40
フォント情報のコラム	40
フォントファミリー	40
QuickFind の使い方	42
検索条件の指定	43
スマートセットを使ったフォント検索	43
クイックマッチを使って似たフォントを探す	44
お気に入り	44
フォントのプレビュー	45
プレビューテキストのカスタマイズ	45
ウェブサイトまたはHTML ファイルのプレビュー	46
プレビューのカスタマイズ	46
フロートプレビュー	48
フォントスナップショット	49
プレビューページの印刷	50
グリフ表示ウィンドウ	50
セットの使用方法	51
セットの作成	51
開いているドキュメントからのセットの作成	53

セットの変更と削除	53
セットの階層化	55
スマートセットの使用方法	55
セットのエクスポートとインポート	56
フォント属性	57
属性を使う	57
フォント検索やスマートセット作成に属性を使う	58
属性を使ってフォントを並べ替える	59
フォント属性の適用と削除	60
デフォルト属性に戻す	60
カスタム属性の作成、編集、削除	60
フォントの分類	61
オートアクティベーションプラグインの使用方法	63
Font Sense テクノロジーについて	63
ドキュメントとライブラリの準備	64
Font Sense メタデータをドキュメントに保存する	65
オートアクティベーションプラグインのインストールと削除	66
フォントを自動で使用可能にする	67
オートアクティベーションの環境設定の変更	69
Extensis フォントパネルを利用する	72
Extensis フォントパネルを開く	72
WebINK への接続	72
Extensis フォントパネルのフォント適用	73
フォントスタイルの変更	73
Photoshop tips	74
保守手順	76
Font Vault のメンテナンス	76
Extensis 社への連絡	78
目次	79

Suitcase Fusionのインストールとアップグレード

インストールまたは既存の Suitcase Fusion からアップグレードする前に、お使いのコンピュータが最低限のシステム環境に合っているかどうかを確認してください。また他のフォント管理ツールが使用停止または削除されていることを確認してください。

システム環境

最新の情報は Extensis ウェブサイトでご確認ください：<http://http://www.extensis.com/support/product-support/suitcase-fusion-4/>

または国内販売代理店のサイトをご覧ください：

<http://www.swtoo.com/product/extensis/>

Suitcase Fusion 4 動作環境

- Windows XP SP3 (32-bit 版のみ)、Vista SP1 (32 または 64-bit)、Windows 7 (32 または 64-bit)
- 1.6 GHz 以上のプロセッサ
- 300 MB 以上のハードディスク空き容量 (アプリケーションとフォントファイル用)
- オンラインフォントサービス用に別途 1 GB 以上のハードディスク空き容量 (各サービスやフォント数によって必要容量が変わります)
- Microsoft .NET Framework version 4.0
- ヘルプ参照用 Internet Explorer 7、Mozilla Firefox 3.6、Google Chrome 10 またはそれ以上
- PDF ドキュメント閲覧用の Adobe Reader 8 またはそれ以上

¹ Suitcase Fusion 4 は 64-bit Windows システム上で 32-bit エミュレートモードのみ動きます。オートアクティベーションプラグインは 32 または 64-bit 両方で動きます。

Extensis フォントパネル用追加仕様

- Adobe Photoshop CS 5/5.1、Illustrator CS 5/5.1、InDesign CS 5/5.5 (Photoshop CS 5.1、Illustrator CS 5.1、InDesign CS 5.5 を含む Adobe Creative Suite 5.5)
- Adobe Flash Player 10.3.183.5 またはそれ以上
- WebINK アカウント (Adobe Photoshop で WebINK フォント利用時)

他のフォント管理ツールを使用停止にする

Suitcase Fusion 以外のフォント管理ツールを使用している場合には、Suitcase Fusion をインストールする前に確実に使用停止にする必要があります。一般的にはそのアプリケーションをアンインストールして確実に使用停止にします。適切に動作させるためには、他のフォント管理ツールを無効にするか、アンインストールする必要があります。

Suitcase Fusion の確実に安定した動作を得るためには、他のフォント管理ツールを以下の手段ですべてのコンポーネントを削除してください。

Universal Type Client を使用している場合

Suitcase Fusion と Universal Type Client は同じシステム上で使用できません。また Suitcase Fusion は Universal Type Server にアクセスできません。

古いバージョンの Suitcase や Suitcase Fusion を使用している場合

バージョン 13 以前の Suitcase または Suitcase Fusion を使用している場合は、Suitcase Fusion 4 をインストールする前にアンインストールする必要があります。またはそのままにしておけば、アップグレードされます。

お使いのバージョンを調べるには **Help > Suitcase Fusion について** を選択します。

Suitcase Fusion 2 (v. 13. x) または Suitcase Fusion 3 (v. 14. x) を利用している場合は、Suitcase Fusion 4 を上書きインストールすることができます。

バージョン 11. x の場合は、*Suitcase for Windows からのアップグレード* を参照してください。

Suitcase Fusion 4 のインストール

Suitcase Fusion 4 のインストーラですべてのインストールが完了します。最も新しいインストーラは Extensis ウェブサイト (<http://www.extensis.com>) からダウンロードできます。

または国内販売代理店のサイトをご覧ください：

<http://www.swtoo.com/product/extensis/>

インストールの前に、起動しているすべてのアプリケーションを終了してください。特に Adobe Illustrator や QuarkXPress などのデザインアプリケーションは確実に終了してください。

インストールを開始するには、インストールファイルをダブルクリックして、表示される指示に従って進めてください。

Suitcase 11 for Windows からのアップグレード

Suitcase for Windows からアップグレードするには、以下のいずれかの手順でデータベースをアップグレードする必要があります：

- Suitcase 11 からフォントを収集して、Suitcase 11 をアンインストールしてから、Suitcase Fusion 4 をインストールします（推奨）。
- Suitcase 11 をアンインストールして、Suitcase Fusion 3 のデモ版をインストールします。Suitcase データをアップグレードしてから、Suitcase Fusion 4 をインストールし、Suitcase Fusion 3 データをアップグレードします。この方法は再作成が難しい重要なセットがある場合に便利です。

方法 1 : Suitcase 11 のアンインストール

重要なソフトウェアをアップグレードする前にはシステムのフルバックアップを取ってください。

1. プラグインをアンインストールします。
 - a. ツール > プラグインのアンインストールを選択します。
 - b. Suitcase を終了します。

2. フォントを終了します。

デスクトップに「収集フォント」という名前のフォルダを作成します。

Suitcase Vault からフォントを収集します :

- a. Suitcase Vault フォルダ (C:\Documents and Settings\\Application Data\Extensis\Suitcase\Suitcase Font Database.suitcasevault\) を開きます。
- b. Data という名前のフォルダ以外をすべて選択して、デスクトップに作成した収集フォントフォルダにドラッグします。
- c. Suitcase を起動します。
- d. **表示 > Suitcase フォントを表示**を選択します。

フォントリストの最初のコラムに？マークがある場合は、これらのフォントがデスクトップに移動した Font Vault にあったことを示しています。Suitcase を終了してステップ 3 に進みます。

その場に残して追加したフォントを収集する :

？マークの付いていないフォントは、その場に残して追加されたフォントです。

これらのフォントがどこにあるのか所在がわかっている場合、または Suitcase Fusion 4 では使わない場合は以下のステップはとばして、Suitcase を終了してステップ 3 に進みます。

- a. ?マークの付いたフォントをすべて選択して**削除**ボタンをクリックします。
確認画面が出るので **OK** をクリックします。
これでフォントリストに残ったフォントは Font Vault 以外のフォントになります。
- b. フォントリスト内の各フォントそれぞれを選択して Ctrl-R を押します。
フォントが Windows Explorer に表示されるので、そのファイルを選択します。
- c. Explorer で選択したフォントファイルを、Ctrl-C でコピーします。
- d. 収集フォントフォルダを開いて Ctrl-V を押します。
これで収集フォントフォルダ内にフォントがコピーされました。

すべてのフォントを収集フォントフォルダにコピーし終わったら、Suitcase を終了してステップ 3 に進みます。

3. アンインストールします。

- a. Windows のコントロールパネルを開きます。
- b. **プログラムと機能をダブルクリック**します (Windows XP ユーザーは**プログラムの追加と削除**) 。
- c. Extensis Suitcase を選択して、**アンインストール**をクリックします (Windows XP は**削除**) 。
- d. 表示に従って Suitcase をアンインストールします。

4. その他のファイルを削除します。

- a. Extensis フォルダ (C:\Documents and Settings\\Application Data\Extensis\) を開きます。
- b. Suitcase フォルダを削除します。
(Extensis フォルダが空の場合はこのフォルダも削除できます。)

5. Suitcase Fusion 4 のインストールを参照してください。

方法 2 : Suitcase Fusion 3 を使ってアップグレード

重要なソフトウェアをアップグレードする前にはシステムのフルバックアップを取ってください。

Suitcase Fusion 3 をインストールする際に、以前の Suitcase データをインポートできます。このインポートにはフォント、セット、他の情報がすべて含まれます。

Suitcase Fusion 3 にデータをインポートすると、前バージョンの以下のデータがインポートされます：

- Font vault 内のすべてのフォント
- その場に残して追加されたフォントの参照場所
- セットを含む Suitcase for Windows データベースのすべての情報

インポート中にすべてのフォントをチェックするため、もし Suitcase Fusion のフォントが DVD や外部ハードディスクなどのメディアから登録してある場合は、インポートの間それらをマウントしておく必要があります。

注意：同じコンピュータ上で複数のユーザーを使っていて、それらのデータを統合する場合は、各ユーザーごとにインポートコマンドを実行する必要があります。

1. **プラグインをアンインストールします。**
ツール > プラグインをアンインストールを選択します。
2. **Suitcase を終了します。**
3. **Suitcase をアンインストールします。**
 - a. Windows のコントロールパネルを開きます。
 - b. **プログラムと機能**をダブルクリックします (Windows XP ユーザーは**プログラムの追加と削除**をダブルクリックします)。
 - c. Extensis Suitcase を選択して、**アンインストール**をクリックします (Windows XP では**削除**)。
 - d. 表示に従って Suitcase をアンインストールします。
4. **Suitcase Fusion 3 をインストールします。**
Extensisウェブサイト (<http://www.extensis.com>) からインストーラをダウンロードできます。
5. **Suitcase Fusion 3 を起動します。**
30 日間デモを選択します。
6. **ツール > Suitcase for Windows データをインポートを選択します。**
以前の Suitcase Fusion データが見つけれない場合はメニューアイテムが選択できません。
7. **Suitcase Fusion 3 が要求する必要な外部メディアやネットワークドライブをマウントします。**
インポートが完了すると、最後にインポートログが表示されます。
このログにはインポートに失敗したフォントやエラーなどが表示されます。
注意：インポートを途中で停止すると、Suitcase Fusion 3 には停止した時点までのインポートデータがすべて残ります。残りのデータをインポートするには、インポートをリスタートしてください。Suitcase Fusion 3 は自動的にインポート済みのフォントやデータを識別して新規の Font Vault 内で重複しないようにします。
8. **Suitcase Fusion 4 のインストールを参照してください。**

Suitcase Fusion 4 をインストールしたら

シリアル番号の入力

製品パッケージ内にシリアル番号があります。Suitcase Fusion 4 起動時にこのシリアル番号を入力します。または後からヘルプメニューから入力します。

シリアル番号を入力しないと、Suitcase Fusion 4 は 30 日間のデモ版として起動します。

シリアル番号を入力するには：

1. Suitcase Fusion 4 を起動します。
2. ヘルプ > シリアル番号の入力を選択します。
3. シリアル番号を入力して続けるをクリックします。

ソフトウェアの登録

シリアル番号を入力したら、Suitcase Fusion 4 を登録するかどうかを聞かれます。

この画面で登録すると Extensis（米国）に直接ユーザー情報が登録されます。日本国内でのサポート、ユーザー登録はパッケージ内に同梱されているユーザー登録カードを参照ください。

Suitcase Fusion へようこそ

Extensis™ Suitcase Fusion™ は、フォントを使った作業をよりすばやく簡単に行うために、システムにあるすべてのフォントを総合的かつ正確に管理する強力なフォント管理ユーティリティです。

Suitcase Fusion を使うと、必要なときだけフォントを見つけて使用可能にし、貴重なシステムリソースと時間を節約できます。また、一般的なデザインアプリケーション用のオートアクティベーションプラグインを使って、ドキュメントだけではなくシステム全体レベルでもフォントを自動的に使用可能にすることができます。

Suitcase Fusion を使用していれば、破損したフォントによってワークフローが中断されるといった心配はありません。フォントが追加されるときに潜在的な問題が診断され、自動的に修正が適用されます。

Suitcase Fusion は、クリエイティブな仕事に携わるプロ向けの業務用フォント管理アプリケーションです。Font Management Core の機能により、必要なフォントを必要なときにいつでも使用できます。

このバージョンの新機能

Adobe デザインアプリケーション用の Extensis フォントパネル

Extensis フォントパネルからは、Adobe InDesign CS5~6、Illustrator CS5~6、Photoshop CS5~6 から直接 Suitcase Fusion のフォントライブラリにアクセスできます。使用しているデザインアプリケーション内から、Extensis フォントパネルを使って直接フォントを選択して使用可能にできます。

WebINK ユーザーは、Photoshop 内の Extensis フォントパネルを使って WebINK フォントを使用したデザインカンパやクライアント用プレビューを作成することができます。WebINK アカウントの詳細とサインアップについては WebINK ウェブサイト (<http://www.webink.com>) を参照してください。

他の新機能

Adobe InCopy プラグイン

Adobe InCopy CS4 と CS5 のオートアクティベーションプラグインが追加されました。InDesign ドキュメントで同じフォントで表示が可能になるため、誤ったページ数や文字のオーバーフローなどの心配の必要がなくなります。

プレビューでのカラー表示

プレビューパネルでのフォントと背景色を設定できるようになりました。カラーの組み合わせをテストしたり、フローティングプレビューでの利用、フォントスナップショットも撮れます。

簡単なセット作成

既存のセットの作成に加えて、複数の選択したフォントからセットを作成できるようになりました。

セットの作成 を参照してください。

お気に入りフォント

フォントをお気に入りとしてマーキングして、簡単に見つけられるようになりました。検索やスマートセット作成にも利用できます。WebINK フォントでも利用できます。

お気に入り を参照してください。

見たいフォントに集中する

見たいプレビューやフォント以外を非表示にすることができます。一つだけを表示する、または他を表示する、両方を表示するなど簡単に切り替えることができます。

Suitcase Fusion インターフェイスを理解する を参照してください。

メニューフォント名

PostScript フォント名は体を表し便利ですが、常にわかりやすいとはいえません。Suitcase Fusion 4 では PostScript 名の表示と、さらにアプリケーションに表示されるフォント名も表示させることができるようになりました。例えば HelveticaNeueLTStd-LtIt は「Helvetica Neue LT Std 46 Light Italic」の方がわかりやすいかもしれません。

Suitcase Fusion とフォント管理の概要

フォント管理ツールをこれまでに使ったことがない場合は、ほとんどのフォントがシステムのフォントフォルダに保存されているはずですが、システムフォントフォルダにあるフォントは、システムが起動または再起動されるたびに自動的に開きます。

少数のフォントしかない場合は、すべてのフォントが常に開いている状態でも問題はありません。一方、フォントの数が多い場合、すべてのフォントが常に開いている状態は、必要のないフォントや今後使うことのないフォントも開いていることとなります。このため、システムのメモリが浪費され、コンピュータの処理速度が遅くなります。また、アプリケーションのフォントメニューからフォントを見つけて選択するのも時間がかかります。さらに、アプリケーションがフォントデータをすべて読み取り、フォントリストを作成するのも時間がかかります。このような状態では、作業効率が大きく下がります。

Suitcase Fusion は、クリエイティブなプロのワークフローに最適なツールです。新しいプロジェクトで適切なフォントを探している場合に限らず、現在使用しているフォントの検索、出力用フォントの収集など、作業のあらゆる段階で容易なフォント管理を可能にします。

Suitcase Fusion を使うと、必要なときに必要なフォントを確実に使用可能にすることができます。さらに、強力なオートアクティベーションプラグインを使うと、アプリケーションごとに使用可能にするフォントを設定できます。

Suitcase Fusion では、プロのワークフローに合わせて、次のような操作が可能です。

使いやすいようにファイルを整理する

- フォントをシステムのフォントフォルダ外に保存して、貴重なシステムリソースを節約できると同時に、必要なフォントだけをいつでも簡単に開くことができます。
- Suitcase Fusion の管理リポジトリである Font Vault にフォントを安全かつ確実に保存できます。
- ドラッグアンドドロップ操作で、フォントをオンデマンドに使用可能または使用不可にできます。
- 特定のジョブのフォントを一時的にシステムに追加し、フォントコレクションをクリーンな状態に保てます。

必要なときにフォントを検索してプレビューする

- QuickFind やスマートセットなどの検索機能を使って正しいフォントをすばやく検索できます。
- キーワード、スタイル、分類、製造元など、さまざまな属性でフォントを整理し、検索できます。
- 同時に複数のフォントをプレビューすると、正しいフォントの選択がこれまで以上に簡単になります。
- グリフ表示機能を使って、必要なフォントを詳しく調べることができます。
- 特別なフォントのセットをすぐに使える状態にしておき、製造元の CD や DVD からフォントを検索する手間を省きます。

必要に応じてフォントを追加したり使用可能にする

- Adobe InDesign や InCopy、Adobe Illustrator、QuarkXPress のドキュメントの開閉時に、フォントを自動的に使用可能または使用不可にできます。
- フォントにアクセスし、必要なときにだけオンにし、必要がなくなったらオフにして、他の用途のためにシステムメモリを解放できます。

ユーザーをサポートするその他の機能

- フォントが破損していないか自動的にチェックし、問題のあるフォントをワークフローから排除できます。
- Font Sense を使って、追加したフォントからデータを自動的に抽出することで、正確なフォントのオートアクティベーションが簡単にできます。
- フォントライブラリやポータブルの Font Vault などの機能を使って、複雑な要求にも対応できます。

注意：「スーツケース」という用語は、元々 Macintosh で使われていました。以前は、フォントは「スーツケース」に保存する必要があり、ここに保存されていないフォントはシステムで使用できませんでした。

フォントについて

フォントはオペレーティングシステムの欠くことのできない一部であると同時に、コンピュータで使用する全アプリケーションやドキュメントにも必要なものです。長年にわたり、多様な電子フォントタイプが開発されてきました。これらのフォントタイプは、プリンタでのきれいな出力、コンピュータのモニターでの安定した表示、複数のプラットフォームでの互換性など、さまざまな理由で作成されたものです。

外部のフォントライブラリに接続する

Suitcase Fusion 4 では、様々な外部のフォントライブラリにダイナミックに接続して、多くの新しいフォントを使うことができます。Suitcase Fusion アプリケーションや、デザインアプリケーション内の Extensis フォントパネルから簡単に接続が可能です。

それぞれのフォントライブラリは、規制を含む独自の使用時のライセンス条件を持っています。ご利用にあたっては、各ライブラリのユーザーライセンス契約条件や情報をお読みください。

WebINK フォントは、Suitcase Fusion 4 内の WebINK プロジェクトでの利用、または Adobe Photoshop CS5~6 内の Extensis フォントパネルから非公開の利用（キャンプやモックアップ）のみ許可されています。

WebINK のライセンス契約条件は (<http://www.webink.com/terms>) (英語) を参照してください。

Google ウェブフォントのライセンス契約条件は (<http://www.google.com/webfonts#AboutPlace:about>) (英語) を参照してください。

Suitcase Fusion と WebINK ウェブフォント

Extensis のフォントレンタルサービスである WebINK は、ウェブサイト用に多くの製造元のフォントを提供しています。フォントは WebINK サーバー上にホストされ、必要に応じてブラウザに供給されます。

WebINK と Suitcase Fusion 4 を使ったフレキシブルなウェブ開発ワークフロー：

- WebINK を使うと、WebINK フォントを使ったウェブページをライブでプレビューすることができます。
- Suitcase Fusion を使うと、フォントのプレビューとプロジェクトへの追加ができます。また WebINK フォントを使ってまだ未公開のサイトも含めウェブページのプレビューが可能です。
- Adobe Photoshop CS5~6 を使うと、特別にライセンスされた WebINK フォントを使ってモックアップサイトを作成することができます。

アカウントの設定と、WebINK ウェブサイト用のプロジェクトの設定が済んだら、フォントのプレビュー、ウェブページ上のテスト、Photoshop でのモックアップ作成、WebINK フォントのプロジェクトへの追加や削除など Suitcase Fusion を使った WebINK プロジェクトの作業が行えます。

WebINK サービスを使うための基本的なステップは以下の通りです。


1. **WebINK アカウントを作成します。**
必要なのはメールアドレスのみです。WebINK サイト (<http://www.webink.com>) からアカウントを作成できます。
2. **WebINK プロジェクトを作成し、サイトを追加します。**
プロジェクトはウェブサイトのリストと、そこで使用するフォントで成り立っています。WebINK サイトの Type Drawer ページに行くと、プロジェクトを管理できます。
3. **サイトに使用したいフォントを探して、プロジェクトに追加します。**
WebINK ライブラリには、様々な製造元の大量のフォントがあります。Suitcase Fusion では、ページエレメントを WebINK フォントでプレビューすることができます。
Suitcase Fusion ではさらに WebINK を使った構築中のサイトのプレビューも可能です。
4. **プロジェクトからコードを書き出します。**
WebINK ウェブサイトは各ウェブページやスタイルシート用のコードを書き出します。
5. **ウェブサイトにコードを追加します。**

ウェブサイトはすぐに更新されます。

Suitcase Fusion と Google Web Fonts

Google では、Google Web Fonts API で使用するためのオープンソースフォントの無料セットを提供しています (http://code.google.com/apis/webfonts/docs/getting_started.html)。Suitcase Fusion 4 では、これらのフォントをデスクトップに供給しアプリケーション上で使用することができます。

Google Web Fonts の使用可能／使用停止

Suitcase Fusion 4 内で Google Font を使用する場合や、Adobe Photoshop CS5～6 内で Extensis Font Panel を使用するには、機能が使用可能になっている必要があります。Google Web Fonts が使用可能になっている場合は、Google Web Fonts ライブラリアイコン  が Suitcase Fusion 4 の ライブラリパネルに表示されます。使用可能なフォントライブラリのドロップダウンメニューで **Google** が選択されている場合は Adobe デザインアプリケーションで Google Web Fonts を利用可能です。もし Google Web Fonts が使用停止の場合でもすぐに利用可能にできます。




Suitcase Fusion 4 内からも Google Web Fonts を使用可能にできます。ファイル > **Google ウェブフォントを有効にする**を選択します。

Google Web Fonts を使用停止にするには、同様に Suitcase Fusion 4 のファイル > **Google ウェブフォントを無効にする**を選択します。

Google Web Fonts のアップデート

Suitcase Fusion 4 は Google Font を様々なタイミングでアップデートします。手動でアップデートするにはファイル > **Web Fonts を同期**を選択します。

Google Web Fonts ライブラリ

Google Font は Suitcase Fusion 4 内で特別なアイコンが付いたライブラリとして表示されます。

Google Web Fonts ライブラリは他の Suitcase Fusion 4 ライブラリと同様に取り扱えます：

- フォントにキーワードを追加したり、他の情報を追加／編集
- セットを作成
- 他のライブラリにフォントをコピー
- 出力用にフォントを収集
- お気に入りとしてマーク

Google Web Fonts ライブラリでは以下のことができません：

- ライブラリ名を変更
- ライブラリにフォントを追加
- ライブラリからフォントを削除
- ライブラリの削除

(Google Web Fonts ライブラリを削除する代わりに、環境設定ダイアログで使用を停止することができます。)

Adobe デザインアプリケーションにおける Google Web Fonts

Photoshop CS5~6、Illustrator CS5~6、InDesign CS5~6 の Extensis Font Panel から Google font を選択することができます。詳細は *Extensis Font Panel を使用する* 72 ページのを参照してください。

Suitcase Fusion のワークフロー

Suitcase Fusion は、常にフォントを正確に管理することで、プロのクリエイティブなワークフローを合理化するように設計されています。一般的なデザインアプリケーション用のプラグインを使用して、ドキュメントで必要とされるときに正しいフォントを自動的に使用可能にします。また、クリエイティブなユーザーはフォントについての詳細情報を必要としますが、グリフパレットなどの便利な機能を使い、フォントを詳しく調べることができます。

次の例は、Suitcase Fusion を出版物制作の場面で使用する場合の仕組みです。

印刷会社が InDesign のドキュメントとフォントのフォルダを収録した CD を受け取ったとします。この印刷会社の社員は、次のことを行います。

- Suitcase Fusion を起動します。
- フォントを Suitcase Fusion に新しいセットとして一時的に追加します（したがってコンピュータを再起動するとフォントは削除されます）。
- InDesign のドキュメントを開き、CD のフォントにアクセスして印刷します。

ドキュメントを印刷し、ユーザーがコンピュータからログオフすると、フォントはデータベースから削除されます。このワークフローでは、各ジョブが提供されたフォントで確実に印刷され、不要なフォントはコンピュータに読み込まれません。

Suitcase Fusion には、制作環境だけでなく、グラフィックデザインにも理想的なオプションが用意されています。たとえば、デザイナーがクライアントのパンフレットを作成しているとしましょう。クライアントは企業のブランドを表す 2 つのフォントファミリーを使っていますが、デザイナーはその他の書体をデザインに使用することもできます。これらのフォントを一貫して使用するために、デザイナーは次のことを行います。

- 必要なフォントを見つけ、Suitcase Fusion のライブラリパネルにドラッグして Font Vault に追加します。
- このジョブで使用するために、これらのフォントの新しいセットが自動的に作成されます。
- 使用する可能性のあるその他のフォントのサンプルをプレビューして印刷し、セットに追加します。
- フォントセットを一時的に使用可能にします。
- これらのフォントを使って QuarkXPress で最初のデザインを作成し、クライアントの承認をもらうために送ります。
- 数日後、QuarkXPress ドキュメントを開き、変更を加えます。QuarkXPress 用オートアクティベーション XTension によって、このジョブで必要なフォントのみが自動的に使用可能になります。
- ジョブを完了し、XTension を使って Suitcase Fusion で参考用の新しいドキュメントセットを作成した後、出力用にフォントを収集し、印刷会社用にフォントのコピーを作成します。
- このクライアントから別の仕事を請けた場合は、ドキュメントセットを再起動後も使用可能にするように変更します（これでフォントが常に使用可能になります）。

ワークフローに Suitcase Fusion を取り入れる方法については、このガイドの「導入事例」を参照してください。

Suitcase Fusion の利点

デザイン関連の仕事では、さまざまなプロジェクト用にフォントの複数バージョンが必要になるという共通の課題があります。Font Vault、Font Sense 情報、オートアクティベーションプラグインを組み合わせる Suitcase Fusion は、フォントを最も正確に使用可能にできるツールです。

たとえば、特定の製造元の Helvetica フォントを使って何年も前にデザインされたドキュメントがあるとします。その後、新しいグリフを追加し、カーニング値も更新して改善された新しいバージョンの Helvetica が作成された可能性があります。古いドキュメントを開く場合は、ドキュメントが元々デザインされたときに使用されたものと同じフォントを使用する必要があります。フォントの新しいバージョンを使用すると、レイアウトのやり直しやその他のデザインエラーなど、予測できない結果が生じ、収益の損失につながる場合があります。プ

口用ではないフォント管理ツールでは、これらの 2 つのフォントを同一のものと判断し、混用してしまう可能性があります。

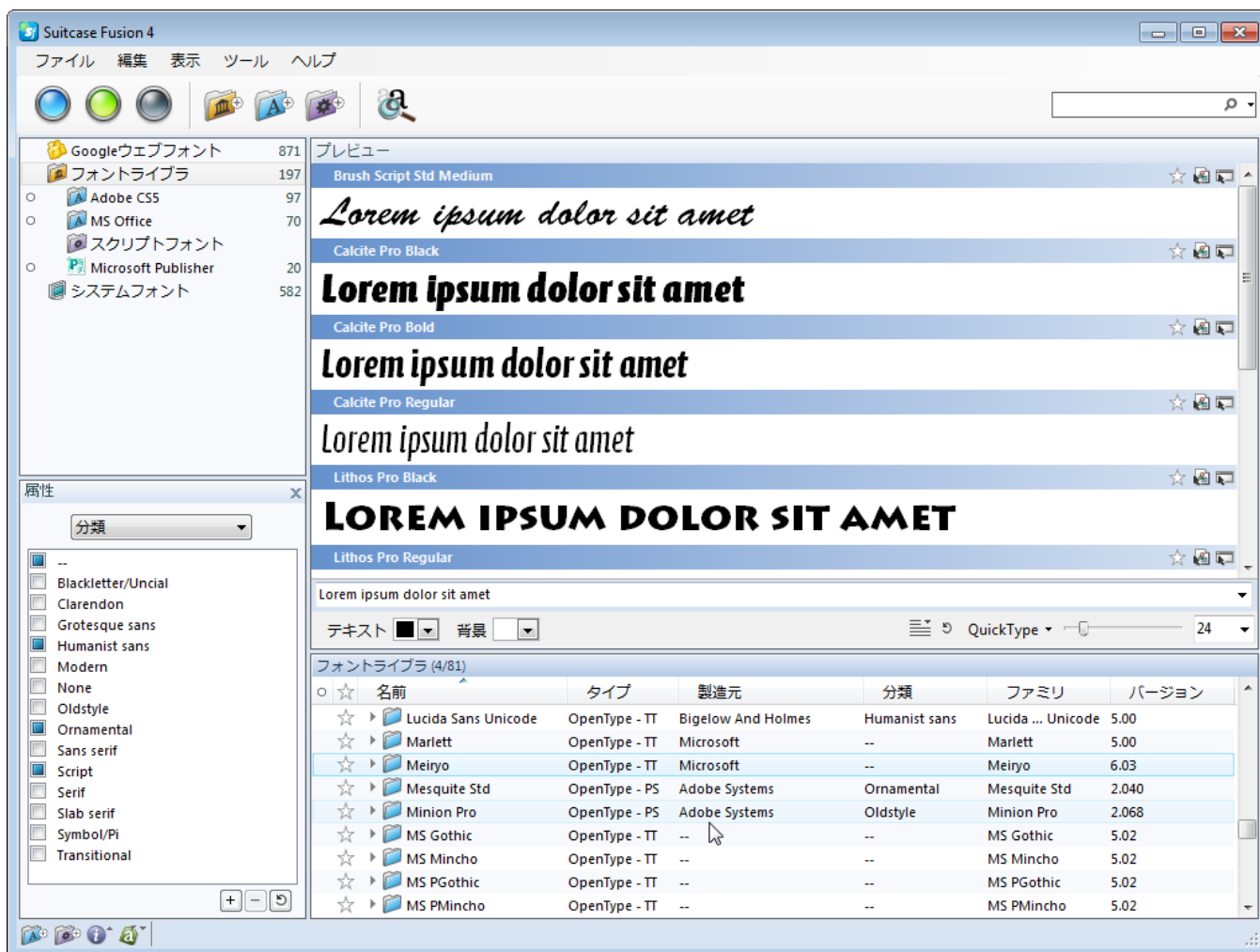
この問題を解決するには、Suitcase Fusion でそれぞれのフォントを調べ、各フォントに固有の Font Sense ID を作成します。これらの識別子は、PostScript 名、カーニング値、バージョン番号など、多数のフォント属性を組み合わせて作成されます。これらの値は、Suitcase Fusion データベースに保存され、ドキュメントを作成するときに Suitcase Fusion プラグインを使うと、ドキュメント自体にもその情報が保存されます。この方法を使用して次にドキュメントを開くと、同じ Font Sense 情報を持つフォントが自動的に使用可能になります。

Suitcase Fusion のインターフェイスについて

Suitcase Fusion 4 には、フォントを管理するために必要なあらゆる機能が備わっています。

ウィンドウは大きく 5 つに分割されており、次のような構成になっています。

- ツールバーはウィンドウの上部にあります
- ライブラリパネルは左上にあります。
- フォントパネルは右下にあります。
- 属性 パネルは左下にあります（ライブラリパネルを大きくしたい場合は非表示にできます）。
- プレビューパネルは右上にあります。



表示を変更する

パネルのサイズを変更する

水平、垂直方向にパネルのサイズを変更するには、パネルを区切っている箇所を左右、上下にドラッグします。ウィンドウやパネルのサイズは Suitcase Fusion 4 終了時のサイズが記憶されます。

フォントリスト、フォントプレビュー、または両方を表示する

フォントリストまたはフォントプレビューパネルを表示/非表示にするには、**表示**メニューから名前を選択します。表示されている名前にはチェックが付いています。非表示の場合にはチェックが付いていません。

ツールバーを表示/非表示にする

ツールバーを表示/非表示にするには**表示** > **ツールバー**を選択します。

表示をカスタマイズする他の方法

フォントリストのコラムの表示、非表示、変更については、**フォント情報のコラム** を参照してください。

プレビューパネルのカスタマイズについては**プレビューテキストのカスタマイズ** や**フローティングプレビュー** を参照してください。

導入事例

Suitcase Fusion は、フリーランスのグラフィックデザイナー、広告代理店、雑誌、新聞、書籍などの発行元、印刷会社など、出版業向けに設計されています。典型的なユーザーのタイプによって、フォントの取り扱い方もさまざまです。たとえば、ウェブデザイナーはサーバー上にあるフォントを利用し、フリーランスのグラフィックデザイナーは独自のフォントを管理していることが多く、制作会社は同じフォントを使うことが多くあります。また、印刷会社では、クライアントのフォントを管理する必要があります。

Suitcase Fusion では、それぞれのワークフローに対応するために、フォントの追加、アクティベーション、および管理をさまざまな方法で行えるようになっています。Suitcase Fusion を使っていくうちに、作業環境に最適な方法が見つかりますが、ソフトウェアの使い方に慣れるまでは、ここで紹介する導入事例のいずれかを使用することをお勧めします。ただし、これらの例は単に推奨される方法であるため、ニーズに合わせて修正が必要になる場合があります。

サーバーベースのフォントソリューション

ワークグループ環境では、多くの場合、サーバーベースのフォント管理システム機能が必要になります。サーバーベースのソリューションでは、フォントの集中管理により、すべてのユーザーが同じフォントを使用することとフォントのライセンス条件の遵守を徹底できます。さらに、不良フォントがワークフローに紛れ込むことを防ぎます。

Universal Type Server は、Extensis が提供するサーバーベースのソリューションで、Suitcase Fusion とは別個に販売されています（米国のみ、日本での販売は未定）。Universal Type Server は、さまざまな組織およびワークグループサイズのニーズに対応できるように、多様な構成で用意されています。

Universal Type Server は、Macintosh、Windows、またはクロスプラットフォームのワークグループ環境で利用できます。クライアントとサーバーは、Macintosh または Windows のどちらかで稼働できます。サーバーベースのフォント管理について、またはデモバージョンのダウンロード方法については、Extensis の Web サイト（英語：www.extensis.com）を参照してください。

グラフィックデザイナー向けの導入事例

通常、フリーランスのグラフィックデザイナーは、さまざまなクライアントと仕事をするとき多数のオプションを利用できるように、大量のフォントコレクションを管理しています。Suitcase Fusion の機能を活用することによって、より効率的にフォントが使えるようになります。

オプション 1：Suitcase Fusion を効率的に使う

ハードドライブに保存しているフォントをすべて Font Vault に追加します。すべてのフォントが 1 か所に集められるため、フォントの重複を防ぎ、フォントコレクションのバックアップを簡単に作成できます。

Font Vault を利用するには：

1. 編集>環境設定を選択します
2. 追加したフォントを Font Vault にコピーするオプションを選択します

フォントをデータベースに登録したら、Suitcase Fusion を使って不要なフォントを削除してクリーンアップすることができます。たとえば、「検索」ダイアログボックスに、重複している可能性のある同じ名前のフォントをすべて表示し、各フォントを確認し、削除してもよいものであるかを判断できます。同じフォントのバージョンが 2 つある場合は、1 つだけを残しておくことができます。または、明らかに必要のないフォントが見つかることもあります。フォントを削除する前に、そのフォントが今後どのジョブやプロジェクトでも、必要になる可能性がないことを確認してください。

フォントをクリーンアップしたら、現在のクライアントやプロジェクト用のセットを作成します。継続的なジョブには、セットを再起動後も使用可能にし、短期のジョブには、セットを一時的に使用可能にします。ジョブが

終了したら、プロジェクトのセットをデスクトップにドラッグし、印刷会社へ送るフォントのコピーを作成できます。

セットを作成すると同時に、フォントを一覧してみて、頻繁に使用するフォントは再起動後も使用可能にします。たとえば、自分のレターヘッドやロゴに使用しているフォント、Zapf Dingbats、Symbol、Times、Helveticaなどを使用可能にします。新しいフォントを取得したら、Font Vault に追加します。

オプション2：フォントを元の場所から追加する

フォントを特定のジョブと一緒に保存する場合や、独自のフォント管理構造を使用する場合は、フォントを元の場所に残すように設定できます。

CD や DVD などのリムーバブルメディアからフォントを追加しようとしていて、ハードディスクにすべてのフォントを保存する十分な空き容量がない場合は、「環境設定」ダイアログボックスの **現在の場所に残してフォントを追加する** オプションを選択して、Suitcase Fusion にこれらのフォントを追加できます。ハードディスクに保存しなくても、すべてのフォントをカタログ化できます。これらのフォントを使用するときには、適切なボリュームをマウントする必要があります。その場合は、メッセージが表示されます。

フォントを元の場所に残して Suitcase Fusion に登録するには：

1. **編集>環境設定** を選択します
2. **現在の場所に残してフォントを追加する** を選択します

フォントを追加すると、フォントファイルはその場所に残され、Font Vault には追加されません。

もちろん、別個のフォントライブラリにフォントを追加することもできます（**ファイル>新しいライブラリ**）。その場合、フォントは Font Vault に保存されますが、フォントコレクションに混ざってしまうことはありません。

広告代理店または出版ワークグループ向けの導入事例

出版プロセスに複数のコンピュータを使用する場合は、フォント管理が非常に重要になります。フォントのわずかな違いが、欠落フォント、不正確な代替フォント、さらにレイアウトのやり直しといった問題にもつながります。また、管理者は、会社がすべてのプロジェクトで使用されているフォントのライセンスを所有していることを確認する必要があります。Suitcase Fusion の機能を使用して、これらの問題を管理するか、より強力なサーバーベースのフォント管理システムにアップグレードすることができます。

スタンドアロンのフォント管理ツールでは、各ユーザーがフリーランスのグラフィックデザイナーと同じように独自のフォントを管理する必要があります。ユーザーは、それぞれの Font Vault に保存された自分のフォントライブラリを管理します。

Suitcase Fusion の複数のユーザーがネットワークを介して、例えば同じ QuarkXPress のドキュメントの作業をする場合でも、ユーザーは自分用のフォントを自分で管理することができます。問題の発生を防ぐためには、共通の仕事をしている際に同じソースからフォントを取得する必要があります。例えば、ユーザーが Adobe InDesign 用のフォントを CD または DVD で受け取った場合、このフォントのバージョンが Photoshop ファイル用の CD に収録されているフォントと同じものであるかどうかはわからないからです。

管理者は、フォントのマスターフォルダを作成して、すべてのフォルダ内のフォントのライセンスが適切に付与されていて、会社が各フォントに対して十分なライセンス数を所有していることを確認する必要があります。フォントのフォルダを各ユーザーのコンピュータにコピーして、このフォルダをワークグループの各ユーザーに配布するか、または、ネットワーク上の場所にフォルダを配置し、各ユーザーが自身でダウンロードして、Suitcase Fusion にフォントを追加できるようにします。ユーザーは、ローカルコンピュータの Font Vault にこのフォントを追加する必要があります。管理者はマスターフォルダにフォントを追加し、ユーザーは定期的にフォルダ全体を Suitcase Fusion に追加します。Font Vault にはフォントを重複して追加できないため、新しいフォントのみがユーザーの Font Vault に追加されます（ライセンス形態によっては、フォントファイルをファイルサーバで共有することが許されていない場合がございます。詳細は各フォントメーカーへお問い合わせください）。

特別なプロジェクトでは、ユーザーは **現在の場所に残してフォントを追加する** オプションを使用し、Suitecase Fusion にフォントを追加できます。フォントを元の場所から追加するオプションを選択すると、新しいフォントはユーザーの Font Vault には追加されず、Font Vault の中には既存の確認されたフォントだけがある状態にできます。

ユーザーは、ライブラリとセットを使って特別なプロジェクトのフォントをさらに整理できます。フォントをひとまとめに保存しないこと、そして複数のクライアントに使用しないことが重要な場合は、クライアントごとにライブラリを作成し、各ライブラリにはそれぞれのクライアントのフォントのみを保存できます。各クライアントに使用したフォントがわかるようにフォントのグループを作成する場合は、1 つのライブラリにすべてのフォントを保存し、クライアントごとにセットを作成します。また、各クライアントのセットは、各プロジェクトのセットを階層化することでさらに整理できます。

たとえば、複数の映画スタジオと取引のある代理店は、スタジオごとにライブラリを作成し、そのライブラリの中に各映画のセット、さらに各映画のセットの中に映画のポスター、DVD カバーなどの個々のプロジェクトのセットを作成できます。

印刷会社向けの導入事例

印刷会社は、毎日クライアントから提供されるフォントを取り扱うため、ジョブごとに出力に必要な正しいフォントを確認しなければならないという他のユーザーにはない特有のフォント管理問題を抱えています。さらに、使用可能なフォントの数を管理し、不要になったフォントを削除する必要もあります。Suitecase Fusion には、この印刷会社特有の問題に対応するために設計された多くの機能が備わっています。

自社フォントの管理

通常、印刷会社は、社内文書やフォントを提供しないクライアントの文書を印刷するために使用できる幅広いフォントライブラリを所有しています。これらのフォントをクライアントのフォントと区別しておくために、自社のフォントは専用の Font Vault に保存できます。

クライアントのフォントの追加

受注したジョブとともにクライアントにフォントの提供を依頼する場合もあれば、クライアントが事前に用意して提供してくれる場合もあります。いずれの場合でも、ジョブごとに数種から数百におよぶ個別のフォントを受け取る可能性があります。これらのフォントをデータベースに追加する方法は、クライアントまたはジョブの性質によって多少異なります。

一般に、クライアントのフォントは、クライアントのジョブファイルと一緒に保存しておきます。その場合は、すべての顧客からの受注とそのフォントを保存しておくフォルダ階層をセットアップできます。Suitecase Fusion の Font Vault は移動可能なため、このクライアントのフォント専用で別の Font Vault を作成することもできます。クライアントごとに専用の Font Vault を使用することによって、確実にそのクライアントのフォントのみが使用されるため、自社フォントまたはライセンス購入していない他のフォントは使用されていないという安心感をクライアントに提供することができます。

1 つの Font Vault から作業したい場合は、Suitecase Fusion 内のフォントライブラリを使って顧客のフォントをさらに区別することができます。顧客から仕事の依頼があったら、Suitecase Fusion 内のライブラリを選択し、そのジョブに使用するフォントすべてをセットとしてそのライブラリに追加できます。Suitecase Fusion のオートアクティベーションプラグインは、1 つのライブラリ内のフォントのみを使用可能にするため、そのライブラリのフォントのみが自動的に使用可能となります。

システムにフォントを残したくない場合は、クライアントとジョブのタイプに応じて、他のオプションを利用できます。

1 ~ 2 ページのジョブをご依頼の新規クライアントの場合は、フォントを一時的に追加します。フォントはデータベースに追加されると同時に使用可能となり、すでに使用可能になっている同じ名前を持つフォントは無効になります。コンピュータをシャットダウンすると、このフォントはデータベースから削除されます。短時間のジョブ、特に使用するフォントが数種類しかないジョブの場合は、後で削除する必要がある新しいキーワードやセットなどを作成しない方がよいこともあります。

ウェブデザイン向けの導入事例

Suitcase Fusion がウェブデザインでも利用できるようになりました。最新のブラウザを使用すると、ウェブデザイナーは閲覧者側にインストールされていないフォントを使用することができるようになります。Suitcase Fusion では 2 つの特別な機能 Extensis フォントパネルとウェブプレビュー機能を搭載しています。Extensis が提供するフォントレンタルサービス WebINK で使用するウェブフォントを使ったウェブページのモックアップとプレビューを行えます。

デスクトップフォント管理ツール

ウェブやウェブデザインに興味がある場合は、デスクトップフォント管理ツールである Suitcase Fusion 本体の機能も大変有効に利用することができます。Suitcase Fusion では以下のようなことが可能です：

- システムリソースからの開放
- 破損フォントや重複フォントの回避
- ウェブフォントにマッチしたローカルフォントを一時的に使用停止にする（ウェブサイトのテスト時に）

Extensis フォントパネル

Extensis フォントパネルは Adobe アプリケーション用のプラグインです。このパネルから Suitcase Fusion フォントや Google Web Fonts へアクセスが可能です。またこのパネルを使って WebINK フォントを使用可能にし、Photoshop CS5~6 で作成するカンパやウェブサイトのモックアップに使用することができます。

ウェブプレビュー

Suitcase Fusion 4 のウェブプレビューは、現在のウェブサイト内でデザインや開発の間、数千ものフォントをプレビューできます。

Suitcase Fusion 4 では、フォント選択、デザイン上での使用、月額のリENTAL管理などを行える機能が搭載されています。

プロジェクトで使う

WebINK ではウェブサイトやフォントをプロジェクトにグループ化することができます。各 WebINK プロジェクトはそのフォントが使われているサイトセットとフォントセットをリンクしています。必要なだけいくつでもプロジェクトを持つことができます。

プロジェクトは、実際にウェブサイトが公開されてフォントを使用するようになるまで、開発モードにしておくことができます。プロジェクトが開発モードにある場合は、WebINK フォントは一日で限定された数のユーザーしか配信されません。ウェブサイトを作成している間はフォント使用にかかる費用は支払う必要がありません。ウェブサイトが完成したら、プロジェクトをプロダクションモードにして、WebINK フォントをあなたのサイトで使用できるようにできます。

ローカルのウェブサーバーを使う

自分のコンピュータやネットワーク上のウェブサーバーをプロジェクトに追加して設定することができます。ウェブサイトをデザインした後、インターネットを通じて公開する前に、ローカルサーバー上でテストすることができます。

プロジェクトを引き継ぐ

WebINK のフォントを使用したウェブサイトのデザインが完了したら、プロジェクトを第三者に引継ぎ、フォント使用料の支払いを委譲することができます。

Suitcase Fusion のセットアップ

Suitcase Fusion にフォントを追加する前に、フォントの管理についていくつか基本的な事項を決定する必要があります。事前にこれらを決めておくことで、Suitcase Fusion を使ってフォントを整理し、生産性を高める方法をより深く理解できます。

Suitcase Fusion では、フォント管理のニーズを満たすために、Font Vault と呼ばれるセキュリティ保護されたリポジトリを使用するか、現在の場所にあるフォントにアクセスして既存の管理構造を使用することができます。

セットアップクイックスタート

Suitcase Fusion は簡単にセットアップできます。セットアップを始める前にいくつかの簡単な条件を決定しておけば、以降のフォント管理が容易になります。

以下の指示に従って、Suitcase Fusion を簡単にセットアップすることができます。ワークフローについて気になる点がある場合は、「導入事例」を参照してください。「導入事例」では、Suitcase Fusion をワークフローの向上に役立てるためのいろいろなアイデアを説明しています。

1. Suitcase Fusion 4 を起動します。
2. Suitcase Fusion 環境設定で Font Vault オプションを選択します。
3. Suitcase Fusion の以前のバージョンからアップグレードする場合は、データベースをインポートします。
4. Suitcase Fusion にフォントを追加します。
5. プレビューパネルでフォントをプレビューします。
6. 必要に応じてフォントを使用可能または使用不可にします。
7. 特定のプロジェクト用やクライアント用のフォントのセットを作成します。
8. フォントを簡単に検索できるように、フォントにキーワードを追加します。

Font Vault

Font Vault は、Suitcase Fusion のデータベース全体とフォントを保存する、セキュリティ保護された単一の管理リポジトリです。

フォントセット、キーワード、カスタム分類、スタイル、製造元など、すべてのフォントデータが Font Vault に保存されます。

ハードディスクやその他の場所に残したまま追加されたフォントへの参照も保存されます。

複数の Font Vault を使用することができるため、新しい Font Vault に切り替えるだけで、Suitcase Fusion でのフォントの整理方法やシステムでの使用方法をすべて変更することが可能です。

フォントを保存するための Font Vault

おそらく、フォントはコンピュータ全体、ネットワーク、さらには多くの外付けの CD や DVD、ハードディスクに分散していることでしょう。

Font Vault は、フォントを保存して自動的に整理できる、ハードディスク上の安全な場所です。フォントは保護されているため、誤って削除したり、変更したりする心配がありません。Font Vault に保存されているフォントは、簡単に追加、削除、使用可能にすること、プレビュー、コピーができます。

Font Vault の利点

Font Vault には次のようなさまざまな利点があります。

- Suitcase Fusion では、重複フォントを Vault に保存できないようになっています。これで、フォントを管理しやすくなり、必要なストレージ容量も最小限に抑えることができます。
- Font Vault は保護されているため、重要なフォントファイルを誤って削除してしまうことはありません。
- フォントは自動的に書体別に分類されるため、必要な書体だけを使用可能にできます。
- Font Vault にフォントを保存しておくことで、Suitcase Fusion でこれらのファイルを簡単に管理できます。フォントの追加、削除、コピー（収集）、プレビューなど、もちろん使用可能にするといった操作も可能です。
- Font Vault は別の場所にバックアップを作成できるため、問題が発生しても復元が可能です。

ディスクのフォルダにフォントを整理している場合は、Font Vault を使うようにすると、Suitcase Fusion の整理機能をすべて利用できます。フォントファイルをフォルダからフォルダに手動で移動する必要がなくなります。さらに、Suitcase Fusion は、出力用にファイルを収集するときにも、優れた整理機能を発揮します。収集されるフォントは論理的にファミリーに整理されます。また、作成したセットごとに整理することもできます。

徹底したフォントの保護と信頼性を得るには、Vault を使用することをお勧めします。

Font Vault を使う

Font Vault にフォントを追加するように、Suitcase Fusion を設定するには：

1. **編集>環境設定**を選択します。
2. 「環境設定」ダイアログボックスで **追加したフォントを Font Vault にコピーする** を選択します（Suitcase Fusion をインストールすると、この設定がデフォルトで選択されています）。

注意： オリジナルのフォントファイルを含むバックアップを常に維持するために、定期的に Font Vault をバックアップすることを推奨します。

フォントを元の場所から追加する

フォントファイルを自分で管理する場合は、フォントファイルを元の場所に残しておきながら、管理だけを一カ所でおこなうことができます。フォントコレクションに一時的に追加するだけで、データベースに余計なフォントを登録したくない場合は、元の場所からフォントを追加できます。

Extensis では主に利用するフォントは Font Vault に登録するようお勧めします。元の場所から追加する方法と、Font Vault を使う方法は、利用目的に合わせて切り替えて利用できます。この場合は、フォントを追加する前に環境設定で設定を変更します。

フォントを元の場所に残すように Suitcase Fusion を設定するには：


1. **編集>環境設定**を選択します。
2. 環境設定ダイアログボックスで **現在の場所に残してフォントを追加する オプション**を選択します。これで、現在の場所からフォントを使用可能および使用不可にできます。

Font Vault 設定が自動的にフォントを Font Vault に追加するよう設定されている場合、ALT キーを押したままにして、フォントまたはフォルダを Windows Explorer からドラッグし、フォントパネルまたはセットパネルにドロップすることにより、フォントを追加できます。

Microsoft Windows のシステムフォントの管理と取り扱い

システムフォントは、ライブラリパネルのシステムフォントアイコンの下に表示されます。これらのフォントは、Microsoft Windows のフォントフォルダ (\\Windows\Fonts\) に保存されていて、オペレーティングシステムによって使用可能になります。

必要なシステムフォント

Microsoft Windows が正しく機能するために必要なフォントは、システムフォントリストでロック状態を示す  アイコンが付いて表示されます。システムの安定性を維持するために、これらのフォントは手動では使用不可にできません。

「必要なシステムフォント」とされるフォントは、Windows のリリースによって異なります。ツール > アップデートを確認を選択して最新版をダウンロードし、Suitcase Fusion のバージョンをいつも最新にしておいてください。

システムフォントの無効化

使用可能なシステムフォントと同じ PostScript 名を持つフォントを使用可能にしようとする、そのシステムフォントが「必須」のフォントでなければ、自動的にこれを使用不可にして、要求したフォントが使用可能になります。そのフォントが「必要な」システムフォントと同じ PostScript 名を持っている場合、フォントアクティベーションはできません。

アップデートの確認

Extensis では、定期的に Suitcase Fusion をアップデートして、オペレーティングシステムのアップデートとの互換性の維持、新機能の追加、および不具合の修正を行っています。

Suitcase Fusion には、自動アップデート機能が含まれており、オートアクティベーションプラグインなど、最新コンポーネントのダウンロードとインストールを行います。

アップデートをチェックするにはツール > アップデートを確認を選択します。

ユーザーが無効にした警告ウィンドウの復元

Suitcase Fusion を使用しているときに、しばしば操作やコマンドの結果に関する警告が表示されます。その操作の結果について再び警告を表示したくない場合、チェックボックスをクリックして、その警告のみを今後表示しないようにできます。

以前に無効にした警告ウィンドウをすべて復元するには：

1. **編集 > 環境設定**を選択します。
2. **復元** ボタンをクリックします。
3. **OK** をクリックします。

Suitcase Fusion 4 のアンインストール

Suitcase Fusion 4 をアンインストールする前に、Font Vault のバックアップを作成してください。詳細は *Font Vault のバックアップ* を参照してください。

Windows PC から Suitcase Fusion 4 を削除する：

1. 起動しているすべてのプログラムを終了します。
2. Windows のコントロールパネルを開きます。
3. **プログラムと機能**をダブルクリックします。
(Windows XP ユーザーは**プログラムの追加と削除**)
4. Extensis Suitcase Fusion 4 を選択します。
5. **アンインストール**をクリックします (Windows XP は**削除**)
6. 手順に従ってアンインストールします。

フォントの追加、削除、収集

フォントの削除、追加、および収集は、次のように機能します。

- フォントは、選択したライブラリに追加します。Suitcase Fusion を使って、システムフォントライブラリにフォントを追加することはできません。
- フォントは、個別に追加するか、名前を付けたセットとして追加できます。Suitcase Fusion では、フォントをドラッグアンドドロップまたは特定の場所を参照して追加できます。
- オーフアンフォントファイルは許可されていません。フォントの破損問題があれば、修復が試みられます。
- フォントは、セットから削除したり、Suitcase Fusion から完全に削除したりすることができます。
- Font Vault に含まれているフォントを削除すると、そのフォントは完全に削除されます。オリジナルのフォントファイルのコピーを保存しておくには、バックアップコピーを作成するか、ファイルを削除する前に出力用にフォントを収集する必要があります。
- 元の場所から追加したフォントを削除しても、Suitcase Fusion から削除されるだけで、オリジナルのフォントファイルはディスク上にそのまま残されます。
- フォントは、Suitcase Fusion から直接収集（エクスポート）するか、オートアクティベーションプラグインを使ってアプリケーションから収集できます。

フォントライブラリ

フォントライブラリは、Suitcase Fusion で使用される大きな基本コレクションです。インターフェイスの左に表示されるライブラリパネルには、すべてのフォントライブラリと各ライブラリ内のセットが表示されます。

ライブラリパネルでは、システムフォントは別に表示されます。

一般にフォントライブラリは 1 つだけで十分ですが、たとえば次のような理由から追加のライブラリを作成したほうがよい場合もあります。

- 新しい未確認のフォントを、主なワークフローとは区別したい場合。
- クライアントごとにフォントを分けたい場合。
- 1 つをメインライブラリとして使い、もう 1 つは、クライアントのジョブに必要なフォントを元の場所から追加するときに、その保存用として使いたい場合。
- プラグインによるアクティベーションでは、複数のライブラリまたは指定したライブラリでフォントを使用可能にできるので、オートアクティベーションを制御する手段としてライブラリを分けたい場合。

たとえば、特定のプロジェクトで、ライセンス供与されているフォントのみを使用するクライアントがいるとします。この場合は、このクライアント用に承認済みのライセンス供与されたフォントのみを含む別個のライブラリを作成できます。次に、Suitcase Fusion のオートアクティベーションプラグインを使い、フォントのアクティベーションをこのライブラリだけに制限します。これにより、このクライアントのプロジェクトに承認されていないフォントを誤って使用することを防止できます。

新しいライブラリを追加するには **ファイル > 新しいライブラリ** を選択します。

フォントの追加

フォントは、ドラッグアンドドロップ操作で追加するか **ファイル > フォントの追加** を選択して追加することができます。Suitcase Fusion にフォントを追加すると、フォント情報のスキャンと破損のチェックが行われます。

注意: Suitcase Fusion では孤立したビットマップフォントやアウトラインフォントは追加されません。さらに、フォントの追加時には一部の修復が行われます。詳しくは、「フォントの問題を解決する」を参照してください。

フォントを個別に追加する

Suitcase Fusion では、ボリューム、フォルダ、およびファイルを検索してフォントファイルを見つけ、フォントを簡単に追加することができます。

ライブラリにフォントを追加するには

1. Suitcase Fusion を起動します。
2. デスクトップから、ハードドライブ、CD、フラッシュドライブ、ネットワークボリューム、フォルダ、ファイルなど、フォントが含まれている項目を選択します。
3. 選択した項目を **フォント** パネルにドラッグし、選択したライブラリに追加します。また、ライブラリ名やライブラリ内のセットにフォントをドラッグすることもできます。

フォントをセットとして追加する

特定のプロジェクトのフォント用にフォルダがあるなど、現在使っているフォントの管理構造を維持するには、フォントをセットとして追加できます。各フォルダがセットとなり、セット名と内容は対応するフォルダと同じになります。

フォントをセットとして追加するには、次のいずれかを行います。

- ファイル > フォントの追加** を選択するか、Ctrl+L キーを押します。**ライブラリに追加するフォントを選択** ダイアログボックスを使って、フォントのフォルダを見つけて選択し**追加**をクリックします。選択したフォルダから自動的にセットが作成されます。
- デスクトップ上で、フォントが含まれているフォルダを選択します。Suitcase Fusion の **ライブラリ** パネルのライブラリに、このフォルダをドラッグします。また、既存のセットにフォルダをドラッグして、階層化されたセットを作成することもできます。

注意: Suitcase Fusion では、階層化されたセット（セット内のセット）を作成できますが、階層化されたフォントのフォルダを追加しても、自動的に階層化されたセットが作成されるというわけではありません。最上位のフォルダ内に多数のフォルダが階層化されていたとしても、各フォルダ内にあるすべてのフォントが1つのフォルダのセットとなります。階層化されたフォルダを個々のセットとして追加する必要がある場合は、それらのフォルダを選択し、それぞれ個別に追加します。

フォントを一時的に追加する

一時フォントは、コンピュータをログオフまたは再起動するまで、Suitcase Fusion によって管理されています。これは、特定のプロジェクトにのみ使用するフォントがあり、プロジェクトの作業終了後にこのフォントをシステムに残しておきたくない場合に便利です。

デフォルトで、一時フォントは Suitcase Fusion に追加されますが、フォントファイル自体は元の場所に残されます。一時フォントは Font Vault には追加されないため、一時フォントを追加する前に Vault の環境設定を変更する必要はありません。

一時フォントには、フォント、セット、およびプレビューパネルのステータス列に、ボックスで囲まれた青い点が表示されます。使用不可にされた一時フォントには、空の使用可能アイコンを囲むボックスのみが表示されません。

Suitcase Fusion にフォントを一時的に追加するには：

1. **ファイル** > **一時的に追加** (Ctrl + Shift + L) を選択します。
2. 一時的に追加するフォントに移動し 選択をクリックします。

すべての一時フォントを使用不可にして削除するには：

1. **編集** > 一時フォントをすべて削除を選択します。
2. Suitcase Fusion の警告ダイアログボックスが表示されます。はいをクリックします。

一時フォントの一部だけを削除するには：

1. フォントパネルで削除するフォントを選択します。
2. **編集** > **ライブラリから削除**を選択します。または、選択したフォントを右クリックし、**ライブラリから削除**を選択します。

追加するフォントをスキャンする

フォントを追加すると、すべてのフォントを検出、検査、および整理するスキャン処理が実行されます。スキャンにかかる時間は、追加するフォントの数、コンピュータの速度、フォントが保存されているメディアなど、さまざまな要因によって左右されます。

- スキャンの進行状況は、Suitcase Fusion の下部にある **アクティビティ** エリアに表示されます。進行状況のインジケータには、**フォントの検索中**や **ファイルの処理中** といった処理についての情報が表示されます。
- 進捗を示す** ボタンをクリックするとアクティビティウィンドウが表示され、追加されている各フォントのステータスを確認できます。また、**ツール** > **アクティビティビューア** を選択するか、Ctrl + 0 キーを押すこともできます。
- フォントの追加を停止する場合は、Suitcase Fusion の下部にある **アクティビティ** エリアの **停止** ボタン (「X」) をクリックします。すでに追加されているフォントは、そのまま Suitcase Fusion に残されます。また、**アクティビティビューア** の各フォントの **停止** ボタンをクリックすることもできます。

フォントの問題を解決する

Suitcase Fusion にフォントを追加する場合は、スキャン処理と収集された情報を利用して、フォントライブラリをクリーンアップし、すべてのフォントを利用できるようにします。Suitcase Fusion では孤立したビットマップフォントやアウトラインフォントは許可されていないので、問題にはなりません。破損フォント、重複フォント、および消失フォントによって問題が生じる場合があります。

破損フォント

破損フォントは、オペレーティングシステムの問題や文書の問題の原因になる場合があります。

Suitcase Fusion では、フォントリソースを開けないフォント、整合性のない情報が含まれているように見えるフォント、またはフォントファイルリソースの重要なフィールドに不正な値が入っているフォントを、破損ファイルと定義しています。

ほとんどの場合、フォントが破損していれば修復はできません。ただし、特定のタイプの小さな問題は修正が可能であり、また無視しても安全なタイプの問題もあります。スキャン処理で破損フォントまたは問題のあるフォントが識別され、問題のタイプによって、問題を修正してライブラリにフォントが追加されるか、またはフォントを元の場所から追加するオプションが表示されます。

破損の可能性があるフォントを元の場所から追加すると、フォントを確認し、適切な措置を講じられるように、日付スタンプが付いた「問題のあるフォント」という新しいセットに入れられます。

破損の可能性があるフォントを元の場所から追加することにはリスクが伴います。破損フォントは正しく使用可能にできない可能性があり、印刷時に問題が生じる恐れがあります。破損フォントを元の場所から追加する機能は、バックアップまたはフォントの製造元からフォントの新しいコピーを取得することが不可能な場合にのみ利用するものとして含まれています。破損の可能性があるフォントは、不要になったらすぐにライブラリから削除することを強くお勧めします。

重複フォント

Suitcase Fusion では、「重複フォント」とは同じ Font Sense ID を持つフォントを指します。つまり、名前、製造元、タイプ、バージョン番号、FONT ID、カーニングテーブル、アウトラインファイルのサイズが、別のフォントとまったく同じであるということです。

Suitcase Fusion の Font Vault には、「真の」重複フォントは保存されていません。これは、持っているフォントすべてを Font Vault に保存している場合、まったく同じフォント基準を含むフォントを追加しようとしても、許可されないことを意味します。フォントを元の場所から追加する場合は、同じフォントを複数の場所から追加できるので、Suitcase Fusion に同じフォントが複数追加されている可能性があります。

重複フォントの条件は非常に詳細で、1 つのフォントは Font Vault に 1 度しか追加できないため、ライブラリに同じ名前のフォントが複数表示されている場合は、フォントが元の場所から追加されたものであるか、同じフォントの異なるバージョンを持っているかのどちらかです。たとえば、あるフォントの 2 つのバージョンを持っているとします。新しいバージョンには Euro グリフが含まれ、古いバージョンには含まれていません。この場合は、各フォントのバージョンが 1 つになるように、ライブラリから削除する必要が生じる可能性があります。


重複フォントを見つけるには：

1. **編集** > **フォントの検索** を選択するか、Ctrl + F キーを押します。
2. ドロップダウンメニューから **重複フォント** を選択します。選択したライブラリにある同じフォントの異なるバージョンが表示されます。
3. 必要な場合、**名前** 列をクリックしてフォントをアルファベット順に並べ替え、**表示** > **ファミリーによるフォントのグループ化** (Ctrl + E) を無効にします。
4. フォントの違いを調べます。詳細を表示する必要がある場合は、**表示** > **列** からオプションを選択します。
5. 違いを確認したら、残しておくフォントを決め、ライブラリからそれ以外のフォントを削除します。
注意： 削除する前に、他のメディアにフォントを収集し、バックアップを作成してください。

広告主のフォントのライブラリなど、同じフォントの複数のバージョンをライブラリに保存しておく必要がある場合は、これらの「重複フォント」をライブラリに残しておくことができます。

消失フォント

消失フォントを使用可能にしようとする、またはプレビューしようとする、メッセージが表示されます。フォントを元の場所から追加した後に、オリジナルのフォントファイルが消去、削除、または利用できなくなった場合、そのフォントは消失したと見なされます。

消失フォントを示すために、Suitcase Fusion では使用可能ステータス列に赤の疑問符アイコン  が表示されます。

フォントがある場所を表示するには、場所列の見出しを右クリックしてメニューから「場所」を選択し、フォントパネルの場所列を有効にします。

消失フォントを見つけて再リンクするには：

1. フォントパネルで、消失フォントをクリックして選択します。
2. **編集 > 消失フォントの検索**または消失フォントを右クリックしてメニューから **消失フォントの検索** を選択します
3. 消失フォントがあるディレクトリに移動するか、Suitcase Fusion で消失フォントを検索したいディレクトリに移動します。
4. 同じ場所にある他の消失フォントを検出して再リンクするように、Suitcase Fusion を設定するには、**この場所にある他の消失フォントも自動的に検索する** オプションを有効にします。
5. **選択** をクリックします。

フォントのアクティベーションコンフリクト

すでに開いたフォントと競合するフォントを有効化しようとする、通常、Suitcase Fusion は、現在アクティブなフォントを無効化し、要求されたフォントをその代わりに有効化します。

Suitcase Fusion の環境設定を変更して、Suitcase がフォントのコンフリクトにどう対応するを管理できます。

フォントのコンフリクトについて警告するように設定するには：

1. **編集 > 環境設定** を選択します。
2. **コンフリクトが発生したら通知する** を有効にします。
3. **OK** をクリックします。

コンフリクトの通知を有効にすると、Suitcase Fusion が現在アクティブなフォントと競合するフォントを有効化しようとした場合、いずれかのオプションを選択できます。

- リクエストされたフォントを有効化する： このオプションでは、ユーザーが要求したフォント、またはオートアクティベーションプラグインが要求したフォントが有効化されます。
- 現在のフォントを使用可能のままにする： このオプションでは、新しいフォントにより現在アクティブなフォントは無効化されません。

フォントを削除する

古くなった、破損した、孤立している、使われていない、ライセンスがないなど、フォントはどのような理由からでも削除できます。フォントを削除する前に、そのフォントがライブラリで不要であることを確認し、フォントをまた使うことが考えられる場合はバックアップを作成するようにしてください。

フォントを削除する場合は、フォントがどのように削除されるのかを理解する必要があります。フォントは通常、ライブラリウィンドウで選択した場所からのみ削除されます。つまり、セットを選択してフォントを削除すると、ライブラリではなく、そのセットからのみ削除されます。

ライブラリを選択してフォントを削除すると、そのライブラリから削除されます。一般に、Suitcase Fusion にあるライブラリは 1 つだけなので、ライブラリから削除すると、フォントは完全に削除されます。複数のライブラリがあり、1 つのフォントが両方のライブラリに含まれている場合、このフォントを完全に削除するには、両方のライブラリから削除する必要があります。

フォントの削除について

複数のライブラリのフォントを削除すること、単一のライブラリのフォントを削除すること、またはセットを削除することによって得られる結果はそれぞれ異なります。

- 複数のライブラリに属するフォントを削除すると、そのフォントは選択したライブラリからのみ削除されます。
- 一つしかないライブラリのフォント削除すると、そのフォントは Suitcase Fusion から完全に削除されます。
- セットを削除すると、セット（およびサブセット）が削除されるだけで、フォント自体はライブラリから削除されません。

ライブラリからフォントを削除する

1 つのライブラリからフォントを削除しても、すべてのライブラリからは削除されません。別のライブラリに同じフォントがある場合は、削除されるまでフォントはそのまま残っています。

ライブラリからフォントを削除するには：

1. Suitcase Fusion を起動し、ライブラリを選択します。
2. 削除するフォント、ファミリー、またはセットを選択します。
3. **編集** > **フォントを削除**を選択するか、Delete キーを押します。
4. 削除を確認する警告が表示されたら、**削除** をクリックします。

フォントを収集する

フォントを収集して、Font Vault に保存されているフォントのコピーを作成できます。通常、出力を行う業者に提供するためにフォントを収集します。フォントの収集には、次の 3 つのオプションがあります。

- 選択したフォントをドラッグして、デスクトップ、フォルダまたはディレクトリにドロップします。
- Suitcase Fusion の **ファイル** > **出力用フォントを収集** コマンドを使って、選択したフォントを収集します。
- オートアクティベーションプラグインを使って、グラフィックデザインアプリケーションから出力ディレクトリにフォントを収集します。

Suitcase Fusion からフォントを収集する

出力用フォントを収集 コマンドを使って、選択したフォントを収集できます。

Suitcase Fusion から出力用のフォントを収集するには：

1. Suitcase Fusion を起動します。
2. ライブラリからセット、ファミリー、またはフォントを選択します。
3. **ファイル > 出力用フォントを収集** を選択するか **Ctrl + D** キーを押します。
4. **出力用フォントを収集** ダイアログボックスで、目的のドライブ、メディア、または場所に移動し **Select** をクリックします。

すべてのフォントのコピーが、指定した場所の「収集されたフォント」という名前のフォルダに保存されます。

注意： 出力用のフォントを収集するときに、Suitcase Fusion の元の場所にフォントが追加されていると、フォントファイル全体に加えて、そのファイルに含まれるすべての書体が収集されます。したがって、選択したフォントがイタリック書体のみでも、フォントファイルに他の書体が含まれている場合は、それらの書体も収集されます。Font Vault に追加されたフォントについては、選択した書体のみが収集されます。

デザインアプリケーションからフォントを収集する

Suitcase Fusion には、Adobe Illustrator、Adobe InDesign、InCopy、Adobe Photoshop、QuarkXPress など、一般的なグラフィックデザインアプリケーション用のオートアクティベーションプラグインが用意されています。このプラグインは、該当するアプリケーションに**出力用フォントを収集** コマンドを直接追加します。 **出力用フォントを収集** 機能を使用すると、アクティブなドキュメント（またはレイアウト）の印刷ページ上のテキストに適用されるすべてのフォントのコピーが作成されます。

ドキュメントが完了し、印刷に送る準備ができれば、出力用のフォントを収集できます。

フォントを収集するには：

1. ドキュメントを開く、またはレイアウトを選択し、消失フォントがないことを確認します。フォントが消失している場合は、プラグインで収集できません。
2. 出力用フォントを収集を選択します：
 - Adobe Photoshop では、 **ファイル > 自動処理 > Extensis** を選択して、 **出力用フォントを収集** をクリックします。
 - Adobe InDesign、InCopy または Illustrator では、 **書式 > Suitcase Fusion > 出力用フォントを収集** を選択します。
 - QuarkXPress では、 **補助 > Suitcase Fusion > 出力用フォントを収集** を選択します。
3. フォントを格納する場所まで移動して、新しいフォントフォルダを作成します。
4. フォルダ名を入力します。
5. **保存** をクリックします。フォントがコピーされ、指定した場所の新しいフォルダに保存されます。

その他のファイルと一緒に、フォントのフォルダを印刷会社または制作部門に届けることができます。

注意： 出力用のフォントを収集するときに、Suitcase Fusion の元の場所にフォントが追加されていると、フォントファイル全体に加えて、そのファイルに含まれるすべての書体が収集されます。したがって、選択したフォントがイタリック書体のみでも、フォントファイルに他の書体が含まれている場合は、それらの書体も収集されます。Font Vault に追加されたフォントについては、選択した書体のみが収集されます。

フォントを使用可能／使用不可にする

Suitcase Fusion では、必要なフォントをすばやく見つけ、各フォント、ファミリー、およびセットを使用可能または使用不可にできます。次のようなフォント操作が可能です：

- フォントを再起動後も使用可能にします。コンピュータを起動するたびに使用可能になります。
- フォントを一時的に使用可能にします。コンピュータをシャットダウンするまで利用でき、次回の起動時には使用不可になります。
- オートアクティベーションプラグインで、一般的なグラフィックデザインアプリケーションでドキュメントを開いたときにフォントを正確に使用可能にします。
- アプリケーションセットを作成すると、特定のアプリケーションが起動した際に特定のフォントが使用可能にできます。
- フォントを使用可能にしたら、すべてのアプリケーションで利用できます。
- フォントがなくなったら、いつでも使用不可にできます。
- Suitcase Fusion には、システムによって使用可能にされたフォントが表示されます。これらのフォントは常に使用可能になっています。

Suitcase Fusion 4 の当バージョンでは、デザインドキュメント内の WebINK フォントのオートアクティベーションが可能です。詳細は *Extensis フォントパネルを利用する* 72 ページのを参照してください。

ライブラリの選択

Suitcase Fusion の **ライブラリ** パネルには、フォントライブラリコレクションのすべてが一覧表示されます。ライブラリをクリックして選択し、フォントやセットを使った作業を開始できます。

ライブラリは、次のように機能します。

- ほとんどの場合、ユーザーは 1 つのライブラリを持ち、そのライブラリは自動的に選択されています。
- システムまたは他のフォント管理ツールによって使用可能になっているフォントは、システムフォントライブラリに一覧表示されます。

注意： オートアクティベーションプラグインは、デフォルトでひとつのライブラリのフォントを使用可能にするようになっています。また、複数のライブラリのフォントからフォントセットを作成することはできません。

フォントを使用可能にする

Suitcase Fusion では、必要に応じてフォントを使用可能または使用不可にできます。フォントが使用可能になっているときは、すべてのアプリケーションで利用できます。Suitcase Fusion には、ライブラリからフォントを選択し、使用可能または使用不可にするさまざまなオプションが用意されています。

ユーザーのニーズとワークフローに応じて、新しいドキュメントのデザイン中に書体ファミリーを使用可能にしたり、プロジェクトのセットを使用可能にしたり、編集しているドキュメントで使われている単一のフォントを使用可能にしたりするなどの操作ができます。

使用可能 / 使用不可にするフォントの選択

個々のフォント、複数のフォント、ファミリー、およびセットを選択し、使用可能または使用不可にすることができます。

- 選択するアイテム（フォント、ファミリー、またはセット）をクリックします。
- 複数のアイテムを選択する場合は、Ctrl - クリックで各アイテムをクリックします。
- 連続する項目の範囲を選択する場合は、Shift キーを押しながら、最初と最後のアイテムをクリックします。
- ファミリーを表示する場合は、表示 > ファミリーによるフォントのグループ化を選択するか、Ctrl + E を押します。
- ファミリーまたはセット内の個々のフォントを表示する場合は、ファミリーまたはセットを展開します。

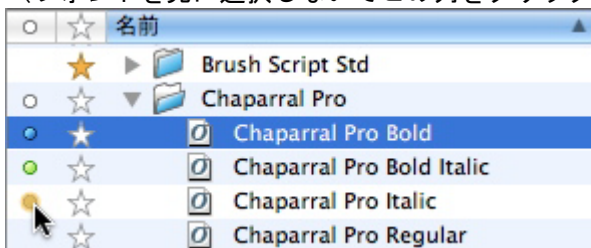
注意： ファミリーと個々のフォントなどのアイテムの組み合わせは同時に選択できますが ライブラリ パネルとフォント パネルの項目を同時に選択することはできません。

選択したフォントを使用可能にする

フォントは、システムからログオフするまで一時的に使用可能にするか、使用不可にするまで再起動後も使用可能にできます。

選択したフォントを一時的に使用可能にするには：

- ツールバーの 一時フォント ボタンをクリックします。
- ファイル > 有効化するを選択します。
- Ctrl + O キーを押します。
- フォントパネルのフォントまたはファミリーの左側に点で示されている 有効化 列をクリックします。
(フォントを先に選択しないでこの列をクリックできます。)



- ライブラリパネルでは、セット名の左側にある 有効化 列をクリックします。
- プレビューパネル、またはフローティングプレビューでは、フォントプレビューの左側にある使用可能アイコンをクリックします。

選択したフォントを再起動後も利用可能にするには、ツールバーにある 再起動後も使用可能 ボタンをクリックします。

アプリケーションセットでフォントを使用可能にする

アプリケーションセットは、特定のアプリケーションを起動する際に、特定のフォントを使用可能にできる機能です。

アプリケーションセットでは：

- フォントは一時的に使用可能になります。コンピュータを再起動した場合はフォントはアクティベーションされません。
- アプリケーションセット内のフォントと同じ名前のフォントがすでに使用可能になっている場合は、フォントは使用可能になりません。
- 同じアプリケーションに対して、複数のアプリケーションセットを作成すると、アプリケーションを起動するたびに異なるフォントが使用可能になる可能性があります。

アプリケーションセットの利用について

- オートアクティベーションプラグインが用意されているアプリケーションはアプリケーションセットを使用しないでください。プラグインはより正確で、ドキュメントを開こうとすると、ドキュメント内で利用されているフォントを使用可能にします。
- すべてのフォント名が異なっていることを確認してください。同名で異なるフォントが含まれていると問題が発生する場合があります。
- アプリケーションに対して、アプリケーションセットは一つだけ作成してください。一つのアプリケーションに対して、複数のアプリケーションセットがある場合は、Suitcase Fusion ではどのアプリケーションセットを利用するかを確定することができません。このため利用するたびにセット間で異なるフォントコンフリクトが発生したりする可能性があります。

フォントを使用不可にする

選択したフォント、ファミリー、セットを使用不可にするには：







- ツールバーにある **使用不可にする** ボタンをクリックします。
- **ファイル > 使用不可にする** を選択します。
- Ctrl + K キーを押します。
- フォント、ファミリー、セット、またはフォントプレビューの左側にある **有効化** 列のボタンをクリックします（フォントを先に選択しないでこの列をクリックできます）。

フォントのアクティベーションについて

Suitcase Fusion では、ほぼ無制限の数のフォントファイルを使用可能にできますが、通常フォント管理ツールの目的は、必要なときに必要なフォントのみを使用可能にすることです。数百または数千ものフォントを使用可能にしておくと、システムやアプリケーションのパフォーマンスに影響する可能性があります。

フォントのステータスを判断する

フォント、ファミリー、またはセットのステータスを判断するには、その左側の **有効化** 列にあるボタンの状態を確認します。

-  青い点は、すべてのフォントが一時的に使用可能になっていることを意味します。
-  緑の点は、すべてのフォントが再起動後も使用可能になっていることを意味します。
-  白の点は、ファミリーの中の一部のフォントまたはセットが使用可能になっていることを意味します。
-  青のダイヤモンドは、プラグインによってフォントが自動的に使用可能になります。
-  使用可能アイコンがボックスで囲まれている場合は、フォントが Suitcase Fusion に一時的に追加されたことを意味します。
-  赤の疑問符は、フォントが元の場所から追加され、Suitcase Fusion では検出できないことを示しています。

再起動後もフォントを使用可能にする

再起動後も使用可能にされたフォントは、コンピュータを起動するたびに自動的に使用可能になり、ログオフまたはシャットダウンするまで使用できます。

一時的にフォントを使用可能にする

一時的にフォントを使用可能にすると、フォントはコンピュータからログオフするまで使用可能になります。

一般に、日常的に使用するフォントは再起動後も使用可能にし、短期の仕事に使用するフォントは一時的に使用可能にします。数日間にわたってプロジェクトの作業を行う場合は、フォントを再起動後も使用可能にし、プロジェクトが終了したら使用不可にできます。

ファミリー内の書体を使用可能にする

Suitcase Fusion では、書体ファミリー全体やスーツケース全体ではなく、書体が 1 つずつ使用可能になります。たとえば、CaflischScriptPro-Light を使用可能にしても、Caflisch Script Pro ファミリー全体が使用可能にはなりません。

書体のすべてのバリエーションを利用可能にする場合は、ファミリー全体を選択して使用可能にします（**表示** > **ファミリーによるフォントのグループ化** を選択するか、Ctrl + E キーを押します）。

フォントメニューの更新

フォントメニューが自動的に更新されるアプリケーションでは、使用可能なフォントはフォントリストにただちに追加されます（QuarkXPress、Adobe InDesign、InCopy、Photoshop、Illustrator などの主要なグラフィックアプリケーションのほとんどを含みます）。

アプリケーションにフォントメニューを動的に更新する機能がない場合は、アプリケーションを再起動すると、新しく使用可能になったフォントにアクセスできます。

FMCore

Suitcase Fusion では、FMCore (Font Management Core) と呼ばれるバックグラウンドアプリケーションを使ってフォントを使用可能な状態に維持します。FMCore は常時バックグラウンドで実行されているため、Suitcase Fusion を終了しても、必要なフォントを使用可能なままにしておくことができます。

FMCore は、Suitcase Fusion 4 を最初に起動すると起動され、手動で Core を停止しない限り、コンピュータにログインすると自動的に起動します。いったん停止した Core を起動するには Suitcase Fusion 4 を再起動します。

FMCore を停止する：

1. Suitcase Fusion 4 を起動して **編集>環境設定** を開きます。
2. 環境設定ウィンドウの **Type Core** タブをクリックします。
3. 環境設定ウィンドウの **FMCore を停止する** ボタンをクリックします。警告ダイアログ内の **FMCore を停止する** をクリックします。
Suitcase Fusion 4 が終了します。

注意

オートアクティベーションプラグインによってフォントを使用可能にする場合、Suitcase Fusion を開いておく必要はありません。Suitcase Fusion を終了するには、**ファイル>終了** (Alt-F4) を選択します。Suitcase Fusion を終了しても Core エンジンはバックグラウンドで起動しています。

フォントの並べ替えと検索

Suitcase Fusion には、ライブラリ内でフォントを表示するための多数のオプションが用意されています。これらのオプションでは、リストに表示するフォントや必要な情報（製造元、分類、バージョンなど）を指定できます。さらに、フォント情報の列の配置を指定し、フォントを任意の条件に基づいて並べ替えることができます。また、フォントを個別に（Minion、Minion Bold、Minion Italic など）、または書体ファミリー（Minion）ごとに一覧表示することもできます。

Suitcase Fusion の検索機能を使うと、ライブラリ内の特定のフォントコレクションをすばやく表示できます。たとえば、OpenType フォントのみ、使用可能なフォントのみ、または Adobe の PostScript Serif フォントのみを表示できます。同じフォントコレクションを何度も検索する必要がある場合は、検索条件を「スマートセット」として保存できます。これを使うと、リストが更新され、ライブラリ内でスマートセットの条件に一致するすべてのフォントが表示されます。

フォント情報のコラム

フォントパネルには、各フォントについてのフォント情報（タイプ、製造元、分類、ファミリー、バージョン、Font Sense（番号）、登録日、メニュー名、ライブラリ）の列を表示できます。デフォルトでは、タイプ、製造元、分類、ファミリー、バージョン、およびライブラリ列が表示されます。デフォルトでは、種類、製造元、分類、ファミリー、バージョン、ライブラリが表示されています。必要に応じて、任意の組み合わせで列を表示でき、必要な情報を確認しやすいように列の配置を指定したり、任意の列を基準にフォントを並べ替えたりできます。

- **列の表示**：表示 > 列を選択するか、列の見出しを右クリックし、フォント情報の列を有効または無効にします。すべての列を確認する必要がある場合は、右にスクロールするか、Suitcase Fusion ウィンドウを拡大します。
- **列の配置**：列の見出し（タイプまたはバージョンなど）をドラッグして、列の順序を変更します。列の幅を調整するには、列の見出しの間のセパレータバーをドラッグします。

名前	製造元	タイプ
Snell Roundhand	Apple Computer	Type
Bank Gothic	Apple Computer	Type
Academy Engraved LET	Letraset	TrueType
Blackmoor LET	Letraset	TrueType
Bodoni SvytTwo ITC TT	Internat...ce	Type

- **列ごとに並べ替え**：フォントまたはファミリーを並べ替える基準となる列の見出しをクリックします。たとえば、分類ごとにアルファベット順に並べ替える場合には、分類をクリックします。

注意：コラム情報のいくつかは特定のライブラリのみ表示されます。例えば、有効なデザインコラムは、WebINK ライブラリや WebINK プロジェクトが選択されていて、Photoshop 内で WebINK フォントが利用可能な時のみ表示されます。

フォントファミリー

Suitcase Fusion がフォントをファミリーにグループ化するには、以下の法則を使用します：

- **名前**：同じファミリー名を持つフォント。
- **製造元**：同じ製造元のフォント。したがって Bitstream の Bauhaus フォントと Monotype の Bauhaus フォントは異なるファミリーになります。
- **種類**：同じ種類のフォント。PostScript Helvetica は TrueType Helvetica とは異なるファミリーになります。

この法則では、例えば Apple の TrueType Times と Adobe の PostScript Times の場合は、同じ名前の複数のファミリーが作成されます。これらのファミリーの違いを見つけるには種類と製造元コラムを見ます。さらに既存のライブラリが同じ名前、同じ製造元、同じ種類で異なるバージョンのフォントを持っていた場合は、同じファミリー内に

グループされます。例えば Garamond ファミリ内に 2 つのバージョンの Garamond-Book が存在する可能性があります。

ファミリごとにフォントをグループ化する

フォントパネルにフォントを個別に表示する代わりに、書体ファミリごとにフォントをグループ化することができます。フォントをファミリごとにグループ化すると、フォントの使用可能 / 使用不可、セットへのフォントの追加、フォント属性の変更、フォントの収集などのフォント管理作業を 1 回の操作でファミリ全体に対して実行できます。

ファミリごとにフォントをグループ化するには：

- 表示 > ファミリによるフォントのグループ化**を選択します。
- Ctrl-E を押します。

ファミリ内のフォントを表示および操作するには：

- ファミリ内のフォントを表示するには、ファミリのフォルダの横の矢印をクリックします。
- 製造元など、特定の検索条件に基づいてフォントを表示する場合は、各ファミリ内でその条件に適合するフォントのみが表示されます。
- ファミリ全体に対し、使用可能などの操作を実行する場合は、ファミリのフォルダをクリックします。複数のファミリを選択するには Ctrl-クリックを押します。連続する複数のファミリを選択する場合は、Shift キーを押しながら、最初と最後の項目をクリックします。

フォントファミリの再グループ

Suitcase Fusion が作成したタイプフェイスによるファミリグループが便利ではない場合は、フォントを他のファミリに移動したり、フォントファミリ名を変更することができます。例えば Letraset のように各フォントごとに名前を付けている場合は、Suitcase Fusion ではファミリにしません。

注意：フォントファミリの変更はすべてのライブラリ内のフォントに影響します。

ファミリ名を変更するには、クリックして新しい名前を入力します。

フォントを他のファミリに移動する：

1. **表示 > ファミリによるフォントのグループ化**を選択します。
2. 移動したいフォントが含まれているファミリを開きます。
3. 移動したいフォントを選択します。
4. 新しいファミリに選択したフォントをドラッグします。

元のファミリに戻すには：

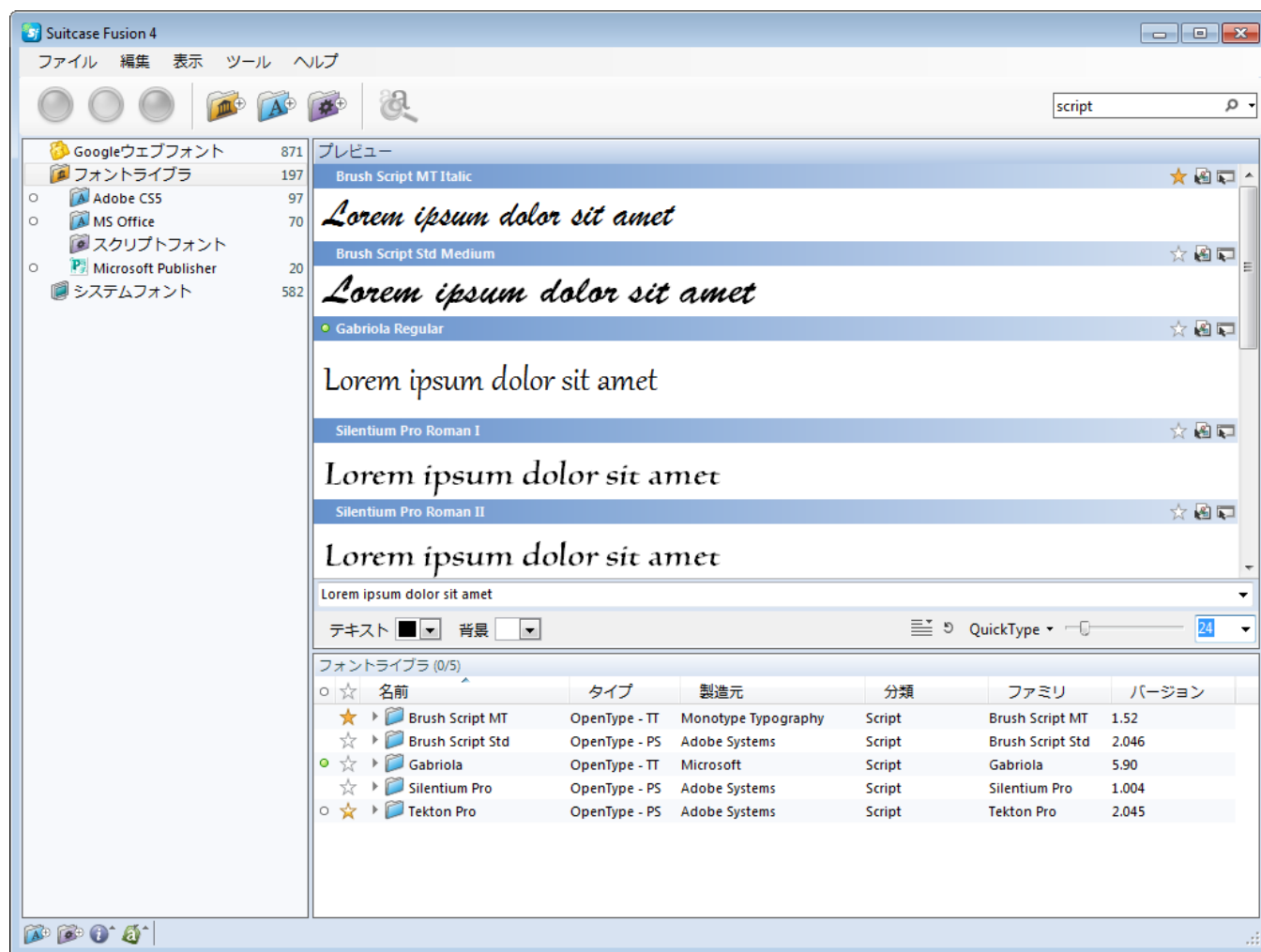
1. フォントファミリを選択します。
2. **表示 > ファミリを復元**を選択します。

QuickFind の使い方

QuickFind ツールは、選択したライブラリ内でフォントまたはファミリーを最も速く見つける方法です。ライブラリまたはセットを選択します。次に、QuickFind フィールドをクリックして名前を入力すると、フォントパネルが自動的に更新され、入力した名前のフォントまたはファミリーが一覧表示されます。

キーボードの Delete ボタンを使って QuickFind フィールド内の文字を削除すると、検索がクリアされ、選択されたライブラリまたはセットの全フォントとファミリーを再度表示します。

検索をクリアし、選択されたライブラリまたはセットの全フォントとファミリーを再度表示するには、QuickFind フィールドで削除ボタンをクリックします。

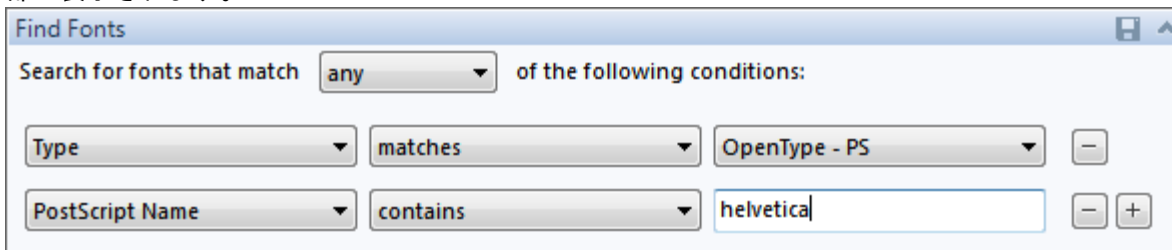


検索条件の指定

名前以外の条件も使ってフォントを検索する必要がある場合は、**検索** 機能に追加オプションがあります。この機能では、名前、製造元、キーワード、スタイル、タイプ、分類、バージョンなど、任意の属性を組み合わせて、フォントを検索することができます。検索条件を指定するときには、条件（「製造元」など）、各条件の限定子（「に一致する」など）、および各条件の値（製造元に「Adobe」など）を指定します。検索には、最高 6 つの検索条件を含めることができます。

検索機能を使って検索するには：

1. **編集** > **フォントの検索**を選択するか、Ctrl + F キーを押します。検索機能は、フォントパネルの上部に表示されます。



2. ドロップダウンメニューからオプションを選択し **いずれかの条件に一致するフォントを検索する** か **すべての条件に一致するフォントを検索する** を指定します。例えば、Adobe のフォントの中から OpenType PS フォントのみを検索するのか、Adobe のフォントすべてと OpenType PS フォントすべてを検索するのか、ということです。
3. ドロップダウンメニューから、**検索条件** を選択します。選択できる条件は、PostScript 名、メニュー名、ファミリー名、有効化、重複フォント、Font Sense ID、タイプ、バージョン、分類、製造元、キーワード、スタイルです。
4. 選択した条件に応じて異なるドロップダウンメニューとフィールドが表示されるため、検索条件に完全に一致するものを指定することができます。たとえば、**タイプ** を条件として選択した場合は、**に一致する** または **に一致しない** を選択し、サポートされているフォントタイプの一覧から選択できます。
5. 条件を追加する場合は、**追加 [+]** ボタンをクリックします。条件を削除する場合は、**削除 [-]** ボタンをクリックします。
注 検索条件を追加する場合は、検索条件のいずれかに一致するフォントを検索するのか、すべてに一致するフォントを検索するのかを必ず指定してください。
6. 検索条件を指定すると、**フォント** パネルが更新され、選択したライブラリで条件に一致するフォントのみが表示されます。フォントの検索を終了したら、右上の矢印をクリックして **検索** ツールを隠します。

スマートセットを使ったフォント検索

たとえば、Linotype の OpenType PS Script の全フォントなど、同じフォントコレクションを何度も検索することがある場合は、検索条件をスマートセットとして保存できます。スマートセットを選択すると、自動的に更新し、検索基準に一致するすべてのフォントがライブラリ内に表示されます。

スマートセットを作成するには：

- **検索条件から**： **検索** 機能が表示されていて、検索条件がすでに設定されている場合は、保存アイコンをクリックします。選択したライブラリに表示される新しいスマートセットをダブルクリックして、名前を変更します。
- **はじめから指定**： **属性** パネルの下の **新規スマートセット** ボタンをクリックします。フォントパネルの上の **検索** 機能を使って、スマートセットの条件を指定し、選択したライブラリに表示される新しいスマートセットをダブルクリックして名前を変更します。

スマートセットの条件を編集するには、セットを右クリックして **スマートセットを編集** を選択します。

クイックマッチを使って似たフォントを探す

クイックマッチ機能を使って、ローカルライブラリ、また WebINK サービスに接続している場合は WebINK ライブラリからフォントを検索できます。

クイックマッチを使うには：

1. 探したいデザインの元のフォントを選択します（ローカルでも WebINK ライブラリでもどちらでも可能）。
2. ウェブプレビュー以外のプレビューを選択します。
注意：クイックマッチでは、プレビューテキストに表示されているキャラクターを利用して検索します。もし探したいフォントに特徴的なキャラクターがある場合は、プレビューテキストに入力しておきます。
3. 編集 > クイックマッチを選択します。

プレビューパネルに、利用可能なすべてのライブラリから検索されたフォントが表示されます。

できること：

- 検索結果の表示数を変更するには、プレビューの上にある 結果 ドロップダウンメニューから変更します。
- 検索するライブラリを変更するには、プレビューの上にある Fonts ドロップダウンメニューから変更します。
- フォントパネルから他のフォントを選択すると、クイックマッチは自動的に検索結果をアップデートします。
- プレビューパネルでフォントを選択してセットや Type Drawer に追加する場合に、クイックマッチで似たフォントを探して使うこともできます。

お気に入り

Suitcase Fusion 4 では、フォントをお気に入りとしてマークしておき、検索や並べ替えに利用できます。

どのライブラリ内でも、WebINK ライブラリや Google Web Fonts でもお気に入りとしてマークできます。

お気に入りとしてマークするには、プレビューリスト、フローティングプレビューパネル内、フォントリストの星印のアイコン☆をクリックします。

お気に入りは「ゴールドスター」アイコンとして表示されます。

お気に入りを解除するには星のアイコン★を再度クリックします。

お気に入りスマートセット

お気に入りでスマートセットを作成すると、常に最新の選択を表示させることができます。新しくお気に入りを選択すると、自動的にセットに含まれます。お気に入りから外すとセットからも外れます。

お気に入りスマートセットを作成する：

1. いくつかのフォントをお気に入りとしてマークします。
2. ファイル > 新規スマートセットを選択します。
3. スマートセットの設定パネルで、最初のポップアップメニューからお気に入りを選択し、2 番目ははいを選択します。



4. スマートセットの設定パネルを閉じます。
5. セット名「お気に入り」等のわかりやすい名前に変更します。

フォントのプレビュー

ドキュメントの作成中、フォントを名前ではなく見た目で識別することが必要な場合があります。フォントの見た目をすばやく確認できるよう、Suitcase Fusion では、**フォント** パネルで選択されているフォントのライブプレビューが表示されます。ユーザーは、プレビューテキストの編集、プレビュータイプの選択、およびサイズ変更を行うことができます。たとえば、新しいクライアントのロゴの作成中、顧客名をさまざまなフォントでプレビューし、そのプレビューを印刷して紙上で確認することができます。

エンコードを認識するプレビュー

プレビュー内に文字を含まないフォントが選択された場合、Suitcase Fusion では、プレビューモードに関係なくそのフォントに存在する文字が表示されます。たとえば、従来のローマ字を含まないアラビア語やアジア言語のフォントをプレビューすると、Suitcase Fusion は何も表示しないのではなく、そのフォントに実際に存在する文字を表示します。

プレビューテキストのカスタマイズ

プレビューパネルでは任意のテキストを表示できます。新しいテキストを表示するには、**プレビュータイプ** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、テキストを入力します。


注意：

ウェブプレビューオプションは、実際のウェブページやローカルの HTML を表示して WebINK フォントをテストするために利用します。ウェブプレビューについては [ウェブサイトまたは HTML ファイルのプレビュー](#) を参照してください。

プレビュータイプ

- ABC 123** : 大文字 / 小文字のアルファベット、およびキーボード上の数字や記号を表示する場合に選択します。
- 複数サイズ** : アルファベットや数字サンプルをさまざまなサイズで表示する場合に選択します。他のテキストサンプルを選択したい場合は、サンプルテキストフィールドのドロップダウンメニューから選択します。
- 文章** : テキスト文章を表示します。
- QuickType** : すばやく一行のテキストでプレビューします。他のテキストサンプルを選択したい場合は、サンプルテキストフィールドのドロップダウンメニューから選択します。

プレビューするテキストをフィールドに入力するか貼り付けることができます。


フィールドを表示するには、プレビューパネルの下にある  ボタンをクリックします。

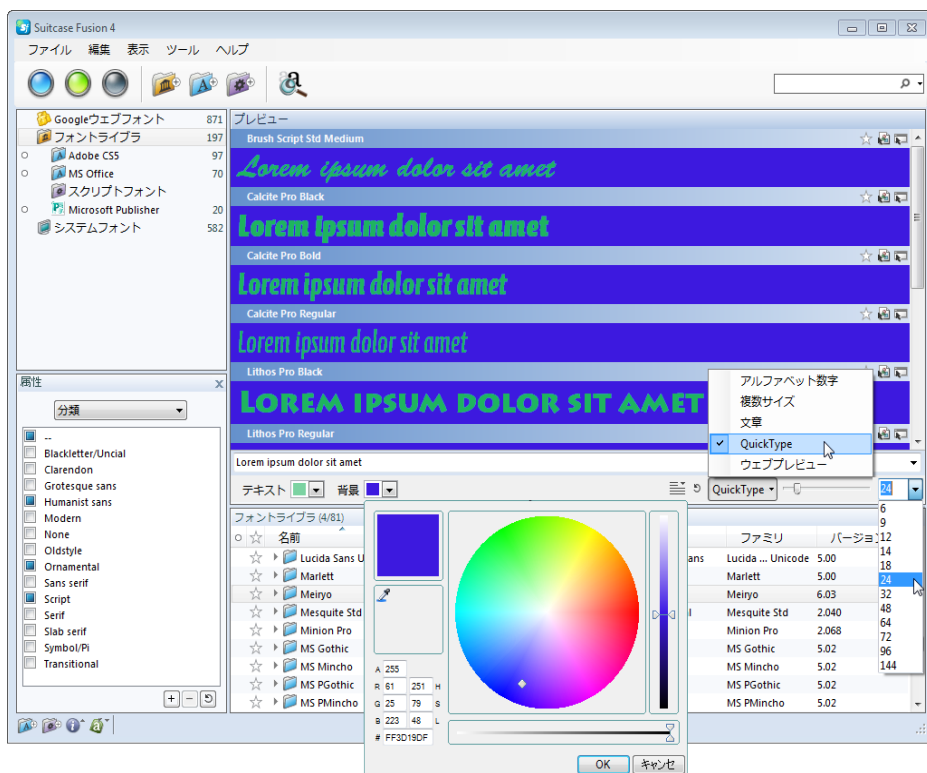
テキストサイズ

プレビューはすべての**プレビュータイプ**で9ポイントから144ポイントの間のサイズで表示が可能です。**プレビューサイズ**スライダを動かすか、ドロップダウンメニューからサイズを選択します。

複数サイズは3つのサイズで表示されます：選択したサイズの2/3と、150%サイズになります。

プレビューカラー

プレビューパネルのテキストと背景色を変更することができます。テキストカラーウォッチをクリックして、テキスト色を変更することができます。また背景カラーウォッチで背景色を変更できます。デフォルトカラーに戻すには、背景カラーウォッチの横にあるリセットボタンをクリックします。



ウェブサイトまたはHTMLファイルのプレビュー

Suitcase Fusion でウェブサイトプレビューするには：

1. WebINK サービスに接続していない場合は、ファイル > WebINK に接続を選択してユーザー名とパスワードを入力します。
2. ウィンドウの下にあるプレビュータイプポップアップメニューからウェブプレビューを選択します。
3. プレビューパネルの上にある、アドレスバーにプレビューしたいウェブアドレスを入力して、Enter をクリックします。

Suitcase Fusion で HTML ファイルをプレビューするには：

1. ウィンドウの下にあるプレビュータイプメニューからウェブプレビューを選択します。
2. アドレスバーの最後にあるドロップダウンボタンをクリックして、参照を選択します。
3. プレビューしたいファイルを選択します。

プレビューのカスタマイズ

ページのテキストエレメントやページ全体に WebINK フォントを適用した場合のウェブプレビューをカスタマイズすることができます。

WebINK フォントをプレビューするためには、WebINK サービスに接続する必要があります。接続していれば、WebINK ライブラリやプロジェクトからフォントを利用することができます。プレビュー上の複数のエレメントに異なるフォントを適用することもできます。

注意： ローカルシステム上にあるフォントをウェブプレビュー上で利用することもできますが、これらのフォントをプロジェクトに追加することはできません。

プレビュー上のエレメントを変更する前に、選択したエレメントの情報の表示や、ウェブプレビュー上で利用できるツールが使える、ウェブプレビューの選択コントロールを知っておくと便利です。

プレビューエレメントの選択

- プレビューページのエレメントを選択するには一回クリックします。
選択されたエレメントには回りにドットのマークが付きます。
- 複数のエレメントを選択する場合は、Control キーを押しながら各エレメントをクリックします。
注意： ページの構成によっては、ページの一部をクリックすると、複数のエレメントが含まれる親エレメントが選択される場合があります（たとえば表の一行をクリックすると、表全体が選択されるなど）。
- 選択を解除するには、Control キーを押しながらエレメントをクリックします。

ウェブプレビューコントロール

Back と Forward

開いたウェブサイトやフォーマット変更の取り消しなど履歴ナビゲーションボタンです。

アドレスバー

ウェブアドレスを入力するか、すでに開いたページのアドレスをドロップダウンメニューから選択します。またはメニューから 参照を選択してローカルにある HTML ファイルを開きます。

更新

適応した変更をクリアして、現在のページを再読み込みします。

中止

現在のページ読み込みを中止

<P> CSS Font: エレメント情報

選択しているエレメントの HTML タグとクラスを表示します。もしエレメントに WebINK フォントが適用してある場合は、その情報も表示されます。

フォントペインタ

複数のエレメントにフォントを適用する場合は、フォントサムネイルをクリックするか、フォントペインタボタンをクリックしてから、ウェブプレビュー上のエレメントをクリックします。完了したらフォントペインタボタンをもう一度クリックします。

フォントフィルタ

ウェブプレビューで適用していないすべてのフォントサムネイルを非表示にします。

ボディ選択

ウェブページのボディ全体を選択

選択解除

選択をすべて解除し、フォーマットをリセットします。

前の変更 と次の変更

変更した内容ごとにプレビューすることができます。

スタイルを戻す

選択したエレメントのスタイルをオリジナルに戻します。

 Abg123

フォントサムネイル

フォントサムネイルでは、いくつかのキャラクタをサンプルとして表示します。エレメントに適用したい場合はフォントサムネイルをクリックするか、WebINK プロジェクトにドラッグします。

フォントサイズ

ドロップダウンメニューから異なるフォントサイズを選択するか、スライダを動かします。

フロートプレビュー


フロートプレビューは、プロジェクトのコンテキストに沿った多数のフォントを、フォントを使用可能にすることなくプレビューする場合に便利です。フロートプレビューはプレビューウィンドウから切り離されていますが、

プレビュータイプや入力サイズに加えられた変更をすべて反映します。この機能は、QuickType プレビューと一緒に使用するのが最も効果的です。

フロートプレビューは、閉じられるまで常にオペレーティングシステムの他のアプリケーションの前面に表示されます。

フロートプレビューの切り離し

フロートプレビューを切り離すには：

1. フォントパネルからフォントを 1 つ以上選択します。
2. フロートプレビューを作成する各フォントプレビューの「フロートプレビュー」ボタン  をクリックして Suitcase Fusion ウィンドウの外側までドラッグします。プレビュータイプ、テキスト、およびサイズを変更すると、フロートプレビューが更新され変更内容が反映されます。

使用可能 / 使用不可にする

他のフォントプレビューと同様、フロートプレビューからでも直接フォントを使用可能または使用不可にすることができます。

フォントを使用可能 / 使用不可にするには、フロートプレビュー内のフォントの有効 / 無効を示すアイコンをクリックします。

複数のフロートプレビューを閉じる

デスクトップ上に複数のフロートプレビューウィンドウがある場合、すべてのプレビューの閉じるアイコンをクリックするのは手間がかかります。複数のフロートプレビューウィンドウをすばやく閉じるには、1 つのプレビューにマージしてから閉じることができます。

複数のフロートプレビューを閉じるには：


1. ツール > フローティングプレビュー > マージするまたは Ctrl + Shift + M を押します。
2. フロートプレビューの閉じるアイコンをクリックします。

フォントスナップショット

一列に並んだプレビューは、画像ファイルとして保存して、参照にしたり、顧客の承認を得る場合、グラフィックアプリケーション内で利用することができます。

プレビューは 72 ppi の PNG (Portable Network Graphic) ファイルとして、透明背景で保存されます。

画像としてプレビューを保存するには：

1. ウェブプレビュー以外のプレビュー種類を選択します。
2. QuickType の場合は、プレビューしたいテキストを入力します。
3. プレビューするフォントを選択します。
4. フォントサイズを設定します。
5. プレビューパネルのタイトルバーにある  アイコンをデスクトップやフォルダにドラッグします。

作成されたファイルには、プレビューフォント名が付きます。

プレビューページの印刷

今日のデジタル化された世界においても、紙に印刷した上で問題がないかを確認することが必要な場合があります。このため、Suitcase Fusion には、プレビューウィンドウ内のフォントのサンプルページを印刷する機能が備わっています。

サンプルページを印刷するには：

1. フォントパネルで、サンプルページを印刷するフォントを選択します。
2. プレビューのタイプ、テキスト、およびサイズをカスタマイズします。サンプルページのテキストは、テキストとサイズの設定に応じて、ページ幅に合わせて印刷されます。
3. **ファイル > プレビューのプリント**を選択します。

注意：プレビューパネルで多数のフォントや非常に大きなポイントサイズが選択されている場合は、印刷に時間がかかったり、多くのページにわたる場合があります。

グリフ表示ウィンドウ

グリフ表示ウィンドウを使用して、選択したフォントのグリフを参照し比較することができます。このツールは下記のような場合に使用します。

- 複数のフォントの特定のグリフの詳細を比較します。
- フォント内で特定の文字や記号を探します。
- フォント内での文字パレットの堅牢度を見極めます。
- ある文字の Unicode 値、およびその文字を作成するために使用されるキーボードコマンドを知りたい場合。

グリフ表示ウィンドウを開くには：

1. フォントパネルから 1 つ以上のフォントまたはフォントファミリーを選択します。
2. **ツール > グリフウィンドウ** を選択します。
3. グリフ表示ウィンドウで **フォントリスト** ドロップダウンメニューからフォントを選択します。グリフ表示ウィンドウにフォントのすべての文字セットが表示されます。
4. 表示されたグリフを絞り込むには、**表示** ドロップダウンメニューからコードページを選択します。
5. グリフの Unicode 番号と、グリフをキーボードで作成する方法を表示するには、そのグリフの上にカーソルを移動してヒントテキストを表示させます。
6. 保存されたグリフのリストに追加するには、そのグリフをダブルクリックします。
7. 次のフォントまたは前のフォントを表示するには、左矢印または右矢印を使用します。

セットの使用方法

各ライブラリ内では、複数のフォントを、特定のクライアント、ジョブ、またはテンプレートごとに「セット」としてまとめることができます。たとえば、広告代理店であればクライアント名やジョブ番号ごとにセットを作成できます。一方、雑誌出版社であれば発行号、またはページごとにセットを作成できます。

セットには、オリジナルフォントへの参照が含まれるので、セットにフォントを追加しても、フォントがコピーされたりフォントライブラリのサイズが増加するということはありません。

セットは各ライブラリ内の **ライブラリ** パネルに表示されるので、これを使用してライブラリ内のフォントを整理できます。セットには、階層化されたセットの場合と同様、1 つまたは複数のフォントを含めることができます。

作成できるセット数に制限はなく、セットを他のセット内に配置したり、同じフォントを複数のセットに配置することもできます。

同じセット内にあるフォントは、1 つの単位としてまとめて操作できます。たとえば、すべてのフォントを使用可能または使用不可能にしたり、印刷会社に渡すためのすべてのフォントの収集することができます。

セットの作成

各ライブラリに作成できるセット数、および各セットに追加できるフォント数に制限はありません。空のセットを作成してフォントをそこにドラッグするか、フォントをセットとして追加するか、または開いているドキュメントからセットを作成することができます。

注意：

Suitcase Fusion 4 では同じ名前のセットを複数作成できますが、フォント使用時に混乱しないように、できれば個別の名前を付けるようにした方がよいでしょう。

セットの作成

新規セットを作成するには3つの方法があります：

- ファイル > 新規セット** を選択します。
- Ctrl-N** を押します。
- ツールバーの**セット作成**ボタンをクリックします。



クリックして、新しいセットを作成します。

新規で作成した名称未設定セットはハイライトされているので、名称を変更できます。

フォント追加と削除

フォントをセットに追加するには：

1. フォントパネルで、セットに追加したいフォントを選択します。
2. フォントをセットにドラッグします。

デスクトップからセットにドラッグすることもできます。この場合はフォントはライブラリとセットに同時に追加されることとなります。

フォントをセットから削除するには：

1. 削除したいフォントが含まれているセットを開きます。
2. 削除するフォントを選択します。
3. **編集 > セットから削除**を選択します。

セットからフォントを削除しても、ライブラリや上位セットからは削除されません。

選択したフォントから新規セットを作成する

選択したフォントから新規セットを作成するには：

1. フォントまたはプレビューパネルでフォントを選択します。
2. **ファイル > 選択したフォントからの新規セット**を選択します。
選択したフォント上で右クリックして、ショートカットメニューから**選択したフォントからの新規セット**を選択することもできます。

新規セットはライブラリの一番上のレベルに作成されます。

フォントフォルダからセットを作成する

フォントフォルダからセットを作成することができます。例えばクライアントやプロジェクトごとに作成していたフォントフォルダを Suitcase Fusion に移行することができます。

フォントフォルダからセットを作成するには以下のいずれかの方法を実行します：

- ファイル > フォントを追加**を選択するか、Ctrl-L を押します。ライブラリに追加するフォントを選択ダイアログでフォントフォルダを選択してから**追加**をクリックします。選択したフォルダからセットが自動的に作成されます。
- Windows Explorer でフォントが含まれたフォルダを選択します。どのフォルダを Suitcase Fusion ライブラリパネルのライブラリにドラッグします。既存のセットにドラッグすれば、そのサブセットとして作成できます。

注意： Suitcase Fusion では、サブフォルダ内のフォントも含めて選択したフォルダ内のフォント全てをひとつのセットにします。選択したフォルダがサブフォルダを持っていても、階層化されたセットは作成されません。

アプリケーションセットの作成

アプリケーションセットは、アプリケーションを起動した際に一時的に使用可能になるフォントセットのことです。

注意：

オートアクティベーションプラグインが用意されているアプリケーションでは、アプリケーションセットは利用しない方がよいでしょう。プラグインでは Extensis Font Sense 技術を使ってドキュメントで使用されている確実に同じフォントを使用可能にできます。アプリケーションセットでは、すでに同じ名前のフォントが使用可能になっている場合に置き換えて使用可能にすることはできません。

アプリケーションセットを作成するには、以下のいずれかの方法を実行します：

- ファイル > 新規アプリケーションセット**を選択し、アプリケーションを選択します。
- 既存の通常セットを選択してから**ファイル > アプリケーションセットに変換**を選択します。

アプリケーションセットを作成した後は、通常のセットと同様にフォントの追加や削除が行えます。

既存のセットをアプリケーションセットに変換するには：

1. 変換したいセットを右クリックします。
2. ショートカットメニューから**アプリケーションセットに変換**を選択します。
3. ファイルダイアログ内で、セットと関連付けたいアプリケーションを選択して、**OK** をクリックします。

注意：変換できるのは通常のセットのみで、スマートセットはできません。

開いているドキュメントからのセットの作成

Suitcase Fusion には、Adobe Photoshop、Illustrator、InDesign、InCopy および QuarkXPress など、一般的なグラフィックデザインアプリケーション用のオートアクティベーションプラグインが備わっています。このプラグインを使用して、該当するアプリケーションにドキュメントセットを作成コマンドを直接追加できます。ドキュメントセットを作成機能を使用すると、アクティブなドキュメント（またはレイアウト）の印刷ページ上のテキストに適用されるすべてのフォントを含むセットを作成します。

たとえば、InDesign で作成された 20 ページのニュースレターで 90 以上の異なるフォントが使用されているとします。Suitcase Fusion でセットを作成してから、これらのフォントを 1 つずつ探して追加するという作業は困難で時間がかかります。オートアクティベーションプラグインは、これらのフォントを自動で検索してセットを作成します。作成されたフォントは現在のライブラリ内で利用できます。

ドキュメントからセットを作成するには：

1. ドキュメントを開き、すべてのフォントが使用可能になっていることを確認します（QuarkXPress の場合はプロジェクトを開いてレイアウトを選択します）。
2. ライブラリを選択します：
 - Adobe Photoshop では **ファイル > 自動処理 > Extensis** を選択し、**ライブラリを選択** ドロップダウンメニューからライブラリを選択します。
 - Adobe InDesign、InCopy、Illustrator では、**書式 > Suitcase Fusion > ライブラリを選択してください** を選択し、ライブラリを選択します。
 - QuarkXPress では、**補助 > Suitcase Fusion > ライブラリを選択してください** を選択し、ライブラリを選択します。
3. **ドキュメントセットを作成**（Photoshop では Extensis パネルから、Illustrator、InCopy、InDesign は **書式 > Suitcase Fusion** サブメニューから、QuarkXPress では、**補助 > Suitcase Fusion** サブメニュー）を選択します。
4. セット名を入力します。
5. **OK** をクリックします。

ファイル内のフォントに変更が加えられた場合は、必ずセットを再作成するか、既存のセットに新しいフォントを手動で追加してください。

セットの変更と削除

作成したセットは自由に変更することができます。他のセットにフォントをコピーしたり、セットからフォントを削除したり、セットを削除することもできます。

セット名の変更

セット名を変更するには、セット名をダブルクリックして新しい名前を入力します。

セット間でフォントを移動する

他のセットにフォントを移動するには：

1. 最初のセットでフォントを選択します。
2. 移動したいセットにドラッグします。

セット間でフォントをコピー

他のセットにフォントをコピーするには：

1. 最初のセットでフォントを選択します。
2. *ALT*キーを押しながら、移動したいセットにドラッグします。

ライブラリ間のセットのコピー

他のライブラリにセットをコピーするには：

1. 最初のライブラリでセットを選択します。
2. 移動したいライブラリにドラッグします。

フォントは移動したライブラリにコピーされます。オリジナルセットは変更されません。

セットからフォントを削除する

セットからフォントを削除することができます。例えば仕事で必要なフォントが変更になったりした場合にセットを更新することができます。

セットからフォントを削除するには：

1. 削除したフォントが含まれているセットを開きます。
2. 削除するフォントを選択します。
3. **編集 > セットから削除**を選択します。

セットの削除

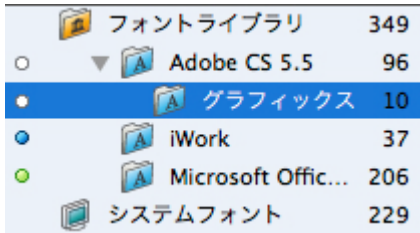
セットごと削除することもできます。セットやそれに含まれるサブセットも削除されます。セットの削除を行っても、その中に含まれるフォントは Suitcase Fusion から削除されません。

セットを削除するには：

1. 削除するセットを選択します。
2. **編集 > セットを削除**を選択します。

セットの階層化

フォントを整理する際、セットを他のセット内に保存すると、それらのセットを個別に操作することも、まとめて操作することもできます。たとえば、雑誌を作成している場合は、雑誌全体用の 1 つのセット内に、各セクション用の個別セットを含めることができます。雑誌の校正刷りを印刷するときには、セット全体を使用可能にします。一方、1 つのセクションを編集する場合には、そのセクション用のセットのみを使用可能にします。



セットはいくつでも階層化できます。このようにして、少数の「マスターセット」を作成してそこに他のすべてのセットを保存することができます。階層化されたセットの操作は、次のとおりです。

- **既存のセットを階層化**：既存のセットを階層化するには、セットを選択して別のセットにドラッグします。
- **階層化されたセットの移動**：あるセットをその親セットから移動するには、そのセットを別のセット名の上にドラッグします。
- **階層化されたセットの表示**：階層化されたセットを表示するには、セット名の隣の三角形をクリックしてセットを展開し、階層化された全セットを表示します。

スマートセットの使用法

スマートセットは、ユーザーが定義した条件に従って自動的に更新される特殊なセットです。スマートセットは、同じフォントコレクション (Font Haus のすべての OpenType PS など) を頻繁に検索する必要がある場合に作成します。この例の場合、スマートセットは、ライブラリ内のタイプが「OpenType PS」、製造元が「Font Haus」であるフォントをすべて表示します。

スマートセットを作成するには：

- **検索条件から**：編集 > フォントの検索を選択するか、Ctrl + F キーを押します。検索条件を指定してから、保存アイコンをクリックします。ライブラリ パネルで新しいスマートセット名をダブルクリックして、名前を変更します。
- **はじめから設定属性** パネルの下の 新規スマートセット ボタンをクリックします。検索 ウィンドウで、スマートセットの検索条件を指定してから、ライブラリパネルで新しいスマートセットをダブルクリックして名前を変更します。

スマートセットの条件を編集するには、セットを右クリックして、**スマートセットを編集**を選択します。

セットのエクスポートとインポート

便利な機能として、Suitcase Fusion では、セット定義ファイル（SDF）で選択したセットをエクスポートできます。SDF ファイルには、セット内に含まれるフォントの Font Sense ID やセット名など、セットに関する情報が含まれます。SDF ファイルには実際のフォントファイルは含まれません。

セットのエクスポートは、他のユーザーとセット構成を共有する場合や、うっかりして 1 つ以上のセットを削除した場合に備えたバックアップ方法として便利です。

セット定義ファイルをエクスポートするには：

1. ライブラリパネルから、エクスポートする 1 つ以上のセットを選択します。ライブラリの全セットをエクスポートする場合は、ライブラリ名をクリックして選択します。
2. ファイル > セットをエクスポートを選択します。
3. SDF ファイルに名前をつけ、エクスポートをクリックします。

セットをインポートすると、SDF ファイルから選択されたライブラリに新しいセットが作成されます。

Suitcase Fusion は、現在のセットを上書きしません。名前が同じ既存のセットがある場合、Suitcase Fusion はインポート時に同じ名前で新しいセットを作成します。したがって、同じ SDF をライブラリに複数回インポートすると、名前が同じ重複セットが作成されます。

セット定義ファイルをインポートするには：

1. ライブラリパネルから、インポートしたセットを入れるライブラリ名を選択します。
2. ファイル > セットをインポートを選択します。
3. SDF ファイルへ移動し、インポートをクリックします。

フォント属性

フォント属性は、ワークフロー内で役立つフォントの情報です。多くのフォントはすでに属性を持っています（製造元など）。フォントの管理や使い方に合わせて既存の属性を変更したり、新しく追加したりできます。

フォントに適用した属性は、すべてのセット、ライブラリで使用できます。

属性の変更は、フォントファイルそのものには影響しません。これらの情報は Suitcase Fusion 内で表示されるだけです。

使用可能な属性：

分類：フォントの分類は、一般的な見た目による歴史的な分類です。各フォントはひとつの分類しか持ってません。Suitcase Fusion はフォントが追加された際に分類しますが、違うと思われる時には変更することもできます。

製造元：フォントのライセンス企業名です。各フォントはひとつの製造元しか持ってません。Suitcase Fusion はフォント内の情報から抽出しますが、必要に応じて編集することもできます。

キーワード：フォントに適用できる短いフレーズです。フォントの管理や検索に役立つと思われる言葉を何でも追加できます。例えばクライアント名やプロジェクト情報、ランク付けなどにも利用できます。キーワードは複数適用できます。

スタイル：スタイルはボールドやイタリックなど、フォントが持つタイポグラフィ上の特徴です。Suitcase Fusion はフォントが追加された際にスタイルを適用しますが、基本的にはフォント名を参考にしています。違うと思われる時には変更することもできます。スタイルは複数適用できます。独自のスタイルを作成することもできます。

属性を使う

Suitcase Fusion の **属性** パネルで、フォントの属性を利用できます。**属性** パネルを表示するには、Suitcase Fusion ウィンドウの左下にある **属性** ボタンをクリックします。

- **属性** パネルの上にあるドロップダウンメニューを使って各属性（分類、製造元、キーワード、スタイル）を表示できます。
- **分類** パネルのチェックボックスをクリックすると、選択したフォントに対して特定の属性を追加したり外したりすることができます。新規属性を追加する場合は **追加** ボタン、属性を削除したい場合は **削除** ボタンをクリックします。**リセット** ボタンをクリックすると、元の属性に戻ります。
- 属性を編集するには、**属性** リスト内の項目をダブルクリックします。
注意：あらかじめ用意されている属性の変更や削除はできません。変更や削除ができるのは後から作成した属性のみです。
- **検索** パネルを使って複数の属性を検索条件にフォントを検索することができます。
- 検索条件をもとにスマートセットを作成して、常に最新の条件にあったフォントを表示することもできます。
- フォントリスト内に、**製造元** と **分類** 属性の列を表示することができます。

フォント検索やスマートセット作成に属性を使う

Suitcase Fusion の検索パネルは属性を含む複数の条件でフォントを検索することができます。

検索パネルの詳細は [検索条件の指定](#) を参照してください。

注意：

検索機能は、現在選択されているライブラリやセット内で実行されます。検索結果が期待通りでは無かった場合は、正しいライブラリやセットを選択しているかどうかを確認してください。

例：キーワードが割り当てられていないフォントを検索する

1. 検索するライブラリやセットを選択します。
2. Ctrl-F を押しながら検索パネルを開きます。
3. 検索パネルの 2 段目、1 つ目のドロップダウンメニューからキーワードを選択します。
4. 2 番目のドロップダウンメニューからキーワードが割り当てられていないフォントを選択します。

フォントリストにキーワードが割り当てられていないフォントが表示されます。

検索条件をスマートセットとして保存すれば、ワンクリックで最新の検索結果を得ることができます。

スマートセットとして検索条件を保存するには：

1. 検索パネルの右上にある保存ボタンをクリックします。
スマートセットは選択されているライブラリやセットのどれにでも保存することができます。
2. 検索条件がわかりやすいスマートセット名を入力します。

スマートセットの検索条件はいつでも編集できます。また他のライブラリやセットにいつでも移動やコピーが可能です。

スマートセットの詳細は [スマートセットの使用方法](#) を参照してください。

属性を使ってフォントを並べ替える

基準にしたいコラムヘッダをクリックしてフォントリストを並べ替えることができます。

フォントリストのコラムに分類と製造元を追加することができます。

フォントリストにコラムを追加するには：

1. フォントリストのコラムヘッダ上で右クリックします。
2. ショートカットメニューから追加したいコラムを選択します。

ショートカットメニュー内でチェックマークが付いているものは、すでにフォントリストに表示されています。チェックされているアイテムを選択すると、チェックが外れて非表示になります。

フォントリストのコラムを移動するには：

1. コラムヘッダをクリックしたままにします。
2. クリックしたまま表示したい場所に左右にドラッグします。
3. マウスボタンを放します。

例：分類順で並び替えるには：

1. 作業するライブラリ、またはセットを選択します。
2. フォントリストのコラムヘッダ上で右クリックをして、ショートカットメニューから分類を選択します。分類にすでにチェックマークが付いている場合は、メニュー外でクリックして操作をキャンセルします。
3. フォントリスト内の分類コラムをクリックして、押したままにし表示したい場所に左右に移動してからマウスボタンを放します。
4. 分類コラムのヘッダをクリックすると、フォントリストは分類順に並びます。もう一度クリックすると、逆順に並びます。

注意：

分類内のダブルハイフン (--) 値は、不明、または未設定を意味しています。

フォント属性の適用と削除

フォント属性の変更は、Suitcase Fusion 内の変更になります。フォントファイル自体は変更されません。

変更はすべてのセット、ライブラリ内で表示されます。スマートセットの検索項目に設定されている場合は、変更が適切であるかどうかを確認してください。

フォントに適用されている属性を変更するには：

1. 属性ボタンをクリックして、属性パネルを表示します。
2. 属性パネルの上にあるドロップダウンメニューから変更したい属性カテゴリを選択します。
3. 作業するライブラリやセットを選択します。
4. フォントリスト内のフォントやファミリーを選択します。
フォントリストをファミリーで表示するには、表示 > ファミリによるフォントのグループ化を選択します。
5. 選択したフォントに適用したい属性のチェックボックスにチェックを入れます。または選択したフォントから外したい属性のチェックを外します。
新規のキーワードを作成して適用することができます。属性パネルの下にある[+]ボタンをクリックして新規キーワードを入力して、ボックスにチェックを入れます。

注意：

フォントから分類や製造元を削除することはできません。適用されていないことを示すダブルハイフン（--は属性リストの一番上にあります）を選択することができます。

ヒント：複数のフォントに取り込み時にすばやく属性を適用するには、フォントをセットとして取り込み、セット内のすべてのフォントを選択して、属性を適用します。それからセットを削除します。セットとして取り込まれたフォントは、ライブラリ内に残ります。フォントフォルダからセットを作成するを参照してください。

デフォルト属性に戻す

どのフォントの属性も、デフォルト値に戻すことができます。属性はスマートセットの値として利用できるのですが、スマートセットの設定に属性が利用されている場合は属性に戻すのに注意が必要です。

注意：キーワードはデフォルトに戻せません。

デフォルト属性にリセットするには：

1. 属性パネルにある属性ボタンをクリックします。
2. 属性パネルの上のドロップダウンメニューから変更したい属性カテゴリを選択します。
3. 作業するライブラリやセットを選択します。
4. フォントリスト内のフォントやファミリーを選択します。
フォントをファミリーで表示するには、表示 > ファミリによるフォントのグループ化を選択します。
5. リセットボタンをクリックします。

カスタム属性の作成、編集、削除

属性のカスタム値を作成、編集、削除することができます。

カスタム属性を作成するには：

1. 属性パネルを表示させるために属性ボタンをクリックします。
2. 属性パネルの上のドロップダウンメニューから変更したい属性カテゴリを選択します。
3. 追加ボタンをクリックします。
4. 新規属性値を入力します（キーワードの場合は新しいキーワード）。

新規で入力した値は属性パネル内にアルファベット順に表示されます。これでライブラリ内のどのフォントにも適用できます。

カスタム属性を編集するには：

1. 属性パネルを表示させるために属性ボタンをクリックします。
2. 属性パネルの上のドロップダウンメニューから変更したい属性カテゴリを選択します。
3. 変更したい属性値をダブルクリックします。
4. 属性値を入力します。キーワードの場合はキーワードを入力します。

注意：すでにフォントに適用されている属性値を変更した場合は、適用されている属性値も更新されます。

カスタム属性を削除するには：

1. 属性パネルを表示させるために属性ボタンをクリックします。
2. 属性パネルの上のドロップダウンメニューから変更したい属性カテゴリを選択します。
3. 削除したい属性をクリックします。
4. 削除ボタンをクリックします。

注意：フォントに適用されていた属性を削除すると、フォントから削除されます。分類、製造元、スタイルなどの場合は各フォントにデフォルト値が適用されます。

フォントの分類

フォントが Suitcase Fusion に追加されると、それらのフォントには自動的に分類が割り当てられます。フォントの分類は、そのフォントのファミリー名を、内部のフォントファミリー名データベースおよびその分類と比較することによって識別されます。Suitcase Fusion がフォントの分類を識別できない場合は、分類列にハイフンが 2 つ表示されます。

デフォルトのフォントの分類が必ずしも適切であるとは限りません。これは、多くの場合フォントの分類が主観的に決められるためです。分類は従来の活版印刷の規則に基づいたものですが、フォントの分類は科学ではありません。そのため Suitcase Fusion では、フォントの分類を変更したり、新しい分類を作成したりすることができます。

デフォルトの分類は次のとおりです。

B
C
G
H
M
G

Blackletter/Uncial: Goudy Text などの Blackletter 書体。華やかな大文字、ダイヤモンド形に近い serif、太くほぼ垂直な線を特徴とし、中世や古い英字に代表される文字です。ケルトやアイルランド文字として知られる Uncial もまた、丸みのある文字と書記体の特徴とする、古典的な文字です。一般的な Uncial 書体には、American Uncial があります。

Clarendon: Bookman などの Clarendon (または ionic) 書体。ブラケット型のセリフを持つ slab serif 書体を継承しており、コントラストは低いものの、sans serif 文字により類似しています。頑丈なセリフは過酷な印刷条件にも耐え得るため、新聞でよく利用されます。Clarendon の他、一般的な Clarendon 書体には、Bookman があります。

Grotesque sans: Univers などの Grotesque sans 書体。機能的かつ実用的なオリジナルの sans serif 文字です。Grotesque (グロテスク) とは、分類を表す用語であり、美しさの度合いを示すものではありません。一般的な Grotesque 書体には、Helvetica や Franklin Gothic があります。

Humanist sans: Gill Sans などの Humanist sans 書体。他の文字から派生した sans serif (serif や inscriptional モデルなど) 書体です。Syntax や Optima は、Humanist sans serif 書体です。

Modern: Fenice などの Modern serif 書体。垂直方向の強調と力強いコントラストが特徴です。Modern のセリフと水平線は非常に細くなっています。セリフと文字の結合部分は、丸みがなく角張っています。最も一般的な Modern 書体は、Bodoni です。

Oldstyle: Garamond などの Oldstyle serif 書体。低～中程度のコントラスト、斜め方向の強調、セリフと文字の丸みのある結合が特徴です。一般的な Oldstyle 書体には、Goudy Oldstyle や Garamond があります。



Ornamental: GiddyUp などの Ornamental 書体。一般的ではなく装飾的で、ほかのカテゴリには含みません。または使用している表示サイズに適している場合にのみ利用します。これには、インライン、アウトライン、彫刻書体が含まれます。Ornamental 書体の例には、Desdemona、Colonna、Edda があります。



Sans serif: Arial などの Sans serif 書体。コントラストがほとんどまたはまったくなく、セリフもないのが特徴です。Sans serif の分類には、Grotesque や Humanist にあてはまらない Sans serif フォントのみが含まれます。例としては、Avant Garde などの幾何学デザイン、Bodega Sans や ITC Anna などの Art Deco 書体があります



Script: Zapfino などの Script 書体。幅広いエッジのペン、柔らかいスチールペン先、筆などの手書き文字を基にしています。これには、子供の手書き文字から、美しく装飾的な Elizabethan 丸文字まで含まれます。一般的な Script には、Shelley、Brush Script、Present Script、Mistral があります。



Serif: Cochin などの Serif 書体。行を追いやすように文字に留めが付くのが特徴です。Serif には、oldstyle、transitional、modern、clarendon、slab など、下位の分類には適さない Serif フォントのみが含まれます。特殊な Serif 書体である三角セリフの Versailles なども含まれます。



Slab serif: Courier などの Slab serif 書体。ブロック状で文字自体と同じ太さの四角いセリフが、垂直または水平方向に突き出すのが特徴です。セリフの結合部分は、丸みがなく角張っています。コントラストがほとんどまたはまったくなく、スラブのようなセリフが付いた Sans serif 文字に似ています。一般的な Slab serif 書体には、Rockwell や Glypha があります。



Symbol/Pi: Zapf Dingbats (Zapf Dingbats) などの Symbol/Pi 書体。フォントにまとめられた記号や画像のコレクションです。一般的な Symbol/Pi 書体には、Wingdings があります。



Transitional: Baskerville などの Transitional serif 書体。oldstyle 書体より高いコントラスト、垂直方向の強調、水平方向のセリフと対称性が特徴です。一般的な Transitional 書体には、Baskerville があります。

オートアクティベーションプラグインの使用方法

ドキュメントで使用されているフォントを自動で正しく使用可能にするため、Suitcase Fusionには、Extensis Font Sense テクノロジーを使用したプラグインソフトウェアモジュールが備わっています。

このプラグインは、個々のフォントの識別情報である Font Sense メタデータをドキュメントに保存し、このメタデータを使用して正しいフォントを自動で使用可能にします。

また、フォントの識別とアクティベーションを正確に行うため、プラグインでは、ドキュメントで使用されているすべてのフォントを識別してセットにまとめたり、印刷会社に渡すためにフォントを収集したりできます。**出力用のフォント収集機能とドキュメントセットの作成機能**はいずれも、ドキュメント内に散在するすべてのフォントを探すプロセスを効率化します。

注意：

Adobe Photoshop では、アプリケーション内でプラグインの働きが制限されています。個別のメニューコマンドの代わりに、Photoshop が提供するパネル内のボタンとメニューから複数のプラグインの機能にアクセスします。このドキュメント内ではこれらの違いを説明しています。

Font Senseテクノロジーについて

出版業界では常識ですが、ドキュメントを開くには特定のフォントが必要で、名前が同じであればどのフォントでも使用できるというわけではありません。フォントの世界では、Helvetica といっても、実際にはさまざまな種類の Helvetica が存在します。また、Adobe Garamond のように、同じ製造元のフォントでも複数のバージョンが存在する場合があります。誤ったフォントを使用すると、テキストがリフローを起し、それにより改行位置の変更、デザインへの影響、テキストの中断などの問題が発生する可能性があります。常に正しいフォントが確実に使用されるように、Suitcase Fusion および Font Sense には独自のフォント識別方法とオートアクティベーション機能が備わっています。

Font Sense テクノロジーは、フォント名による識別の限界を克服するものです。ほとんどのアプリケーションは、ドキュメントで使用されているフォントの名前や、場合によってはタイプ（OpenType、PostScript など）を記録します。しかし、さまざまなフォントタイプ、ベンダ、およびバージョンが存在するため、フォント名は一意的な識別子にはなりません。多くのユーザーはさまざまなフォントの複数バージョン（特に Helvetica や Times などの一般的なフォントの場合）をマシンに保存しているため、ドキュメントで使用されているバージョンをアプリケーションが識別できない場合があります。Font Sense では、完全なフォントメタデータをドキュメントに保存することで、この問題を解決します。

Font Sense で生成されるフォントメタデータには、まずフォントの名前、タイプ、製造元、およびバージョン番号が記録されます。その後、真に固有なフォント識別子として、チェックサム値などの情報が追加されます。最終的には Font Sense 識別子番号が生成され、これを Suitcase Fusion で表示できます（表示 > 列 > Font Sense）。

サポートされるアプリケーションでドキュメントを保存するたびに、プラグインはそのドキュメントで Font Sense メタデータを更新します。これにより、ドキュメントで使用されているフォントの識別で、名前だけに頼る必要がなくなります。

Font Sense に対応したドキュメントを開くと、プラグインは Font Sense データを使用して正しいフォントを識別し、使用可能にします。フォントメタデータはドキュメントに保存されるので、フォント情報の詳細は常にドキュメント内にあります。どの場所でドキュメントを開いても、Font Sense は正しいフォントを識別して使用可能にします。

ドキュメントとライブラリの準備

Font Sense を使用する最終的な目的は、ワークフローに関わるユーザーに、消失フォント、フォントのコンフリクト、または同じフォントの複数バージョンなどの問題が発生しないようにすることです。このためには、次のことを行います。

- ドキュメントに Font Sense メタデータが保存されていることを確認します。ドキュメントが以前に Suitcase Fusion の旧バージョンのプラグインで開かれている場合、Font Sense メタデータはすでに含まれています。
 - ワークフローに関わるユーザーが必要なフォントをすべて持っており、それらのフォントが Suitcase Fusion に追加されていることを確認します。
 - デザインアプリケーションのプラグインオプションで使用可能にするフォントが含まれるライブラリとして、正しいライブラリを選択する必要があります。
 - Adobe Photoshop の場合：ファイル > 自動処理 > Extensis を選択して Extensis パネルを開きます。ライブラリを選択ドロップダウンメニューから、ライブラリを選択するか、すべてのライブラリを選択します。
 - Adobe Illustrator、InDesign、InCopy の場合：書式 > Suitcase Fusion > ライブラリを選択してくださいから、ライブラリを選択するか、すべてのライブラリを選択します。
 - QuarkXpress の場合：補助 > Suitcase Fusion > ライブラリを選択してくださいから、ライブラリを選択するか、すべてのライブラリを選択します。
- すべてのライブラリ が選択されている場合を除き、プラグインは、1つのライブラリに入っているフォントのみを自動で使用可能にしてセットを作成します。

Font Sense メタデータをドキュメントに保存する

Font Sense は、ドキュメントを開いたり、変更、印刷したりするたびに、そのドキュメントで使用されているフォントを自動で正しく使用可能にするための機能です。常に Font Sense を使用して、適切なフォントを他のユーザーに対して使用可能にすると、消失フォント、フォントのコンフリクト、または同じフォントの複数バージョンによる混乱などの問題が発生することはありません。

プラグインの使用を開始するときには、多くのドキュメントには Font Sense 情報がありません。外部から多くのドキュメントやフォントを受け取る印刷会社などの組織では、組織のドキュメントに Font Sense データを保存することは有益です。

Font Sense データを保存するには：

1. 受け取ったドキュメントを前処理するためのコンピュータをセットアップします。
注意：コンピュータには、Suitcase Fusion およびオートアクティベーションプラグインでサポートするすべてのアプリケーション（QuarkXPress、Illustrator、InDesign、InCopy、Photoshop）がインストールされ、**オートアクティベーション環境設定** でアプリケーションごとに **Font Sense サポートを有効にする** が有効になっている必要があります。
2. Suitcase Fusion で、ドキュメントのフォントをセットとして追加し、そのセットのみを使用可能にします。他のフォントが Suitcase Fusion 全体で使用不可になっていることを確認してください。
3. デザインアプリケーションを起動して、プラグインが利用可能な状態でドキュメントを開きます。
4. ドキュメントへ若干の変更を行い、保存します。これで Font Sense メタデータがドキュメントに記録されます。
注意：ドキュメントを変更したくない場合には、同じ場所に同じ名前でも別名保存し、オリジナルファイルを上書きします。この方法でも Font Sense メタ情報はファイル内に保存されます。
5. **ドキュメントセットを作成** コマンドを使用してドキュメント用のセットを作成します。
ドキュメントセットを作成コマンドは、Adobe Illustrator または InDesign の場合書式> Suitcase Fusion メニュー内、QuarkXPress の場合は補助> Suitcase Fusion メニュー内にあります。
Adobe Photoshop の場合は、ドキュメントセットを作成 コマンドは ファイル> 自動処理> Extensis から開く Extensis パネル内にあります。
6. 使用可能なセット内のすべてのフォントを収集し、ワークフロー内のすべてのユーザーがドキュメントを開く前にこれらのフォントを Suitcase Fusion に追加していることを確認します。

注意：Font Sense データを持たない既存のドキュメントの処理を行うこともできます。プラグインを使用して自動的に「最適」なフォントを使用可能にするか、ユーザー自身がフォントを選択してから、ドキュメントを保存して Font Sense メタデータを記録します。

オートアクティベーションプラグインのインストールと削除

Suitcase Fusion には、Photoshop、Illustrator、InDesign、InCopy および QuarkXPress 用のプラグインが含まれています。Suitcase Fusion のインストール後、オートアクティベーションプラグインをインストールして、Font Sense をベースにした正確なアクティベーション機能を活用できます。

注意 : Photoshop、Illustrator、InDesign のプラグインには、Extensis フォントパネルも含まれています。

オートアクティベーションプラグインをインストールおよび削除するには、Suitcase Fusion のプラグインマネージャを使用します。プラグインマネージャはリモートから、適切なプラグインフォルダおよび XTensions フォルダに入っているプラグインを追加および削除します。

オートアクティベーションプラグインをインストールまたは削除するには :

1. プラグインをインストールまたは削除するアプリケーション (Adobe Photoshop、InDesign、Illustrator、InCopy、QuarkXPress) を閉じます。
2. ツール > プラグインを管理を選択します。
3. プラグインマネージャウィンドウで、プラグインをインストールする場合は選択し、削除する場合は選択解除します。

プラグインのステータスは、次に対象のデザインアプリケーションを起動したときに変わります。

注意 : プラグインのインストールまたは削除を行うには、マシンの管理者権限が必要です。

通常、Extensis は、デザインアプリケーションの新規バージョンがリリースされると、新規バージョンと互換性のある新規プラグインを作成します。Suitcase Fusion のアップデートを確認機能を使用して、最新情報を確認してください。

フォントを自動で使用可能にする

Font Sense メタデータが含まれるドキュメントを開くと、プラグインによって、そのドキュメントで使用されている正しいフォントが自動で使用可能になります（それらのフォントが選択されたライブラリに入っていることが前提です）。プラグインは、ファイルが保存されるたびに、必要に応じて Font Sense データを更新します。

Font Sense データが含まれるドキュメントを開いたときにフォントが使用可能になっていれば、消失フォント、フォントのコンフリクト、または同じフォントの複数バージョンなどの問題が発生することはありません。一般に、プラグインはバックグラウンドでシームレスに機能します。ライブラリを選択した後は、正しいフォントが自動的に使用可能になるという安心感を持ってドキュメントを開くことができます。

ライブラリの選択

アプリケーションを起動すると、ライブラリを選択するプロンプトが表示されます。

ライブラリは、次のように機能します：

- ドキュメントを開くと、プラグインによって選択したライブラリ内のフォントが自動で使用可能になります。
- ライブラリは、ドキュメントが開いていてフォントが使用可能になっている間でも、常時変更できます。
- ドキュメントを開いたときに、すべてのフォントが消失しているというメッセージが出る場合は、間違っただライブラリが選択されている可能性があります。ライブラリを切り替えてから、ドキュメントのフォントを確認してください。異なるライブラリを選択するには：
 - Adobe Photoshop の場合：ファイル > 自動処理 > Extensis から、Extensis パネルを開きます。Extensis パネル内のライブラリを選択ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
 - Adobe InDesign、InCopy、Illustrator の場合：書式 > Suitcase Fusion を選択して ライブラリを選択してください サブメニューからオプションを選択します。
 - QuarkXPress の場合： 補助 > Suitcase Fusion を選択して ライブラリを選択してください サブメニューからオプションを選択します。

注意：オートアクティベーションプラグインは1つのライブラリ内のフォントを利用します。1つのライブラリのフォントのみを使用してドキュメントをデザインすることをお勧めします。

ドキュメントでのフォントのスキャン

Font Sense メタデータが含まれるドキュメントを開くと、オートアクティベーションプラグインは、ドキュメントをスキャンして使用されているフォントを確認してから、それらのフォントを正しく自動で使用可能にします（それらのフォントが選択されたライブラリに入っていることが前提です）。ドキュメントで使用されていると見なされるフォントとは、次のものです。

- テキストに適用されているフォント。
- アプリケーションの通常のスタイルシートで指定されているフォント。
- マスターページのテキストに適用されているフォント。マスターページがドキュメントページに適用されているかどうかは関係ありません。

注意：デフォルトで、オートアクティベーションプラグインは、書体ファミリー内のすべてのフォントをまとめて使用可能にするのではなく、フォントの個々のインスタンスを使用可能にします。たとえば、あるドキュメントで Minion-Bold を使用する必要がある場合、プラグインは、Minion ファミリー全体を使用可能にせず、Minion-Bold のみを使用可能にします。ただし、**オートアクティベーション環境設定** で **フォントファミリー全体を有効化する** を有効にすると、スーツケース全体を使用可能にできます。

グラフィックでのフォントのスキャン

完全なオートアクティベーションを実行するため、オートアクティベーションプラグインでは、ドキュメントに貼り込まれたグラフィックファイルをスキャンして、そのファイルで使用されているフォントを使用可能にします。プラグインは、グラフィックファイルに保存された Font Sense メタデータを参照して、可能な限り正確な

オートアクティベーションを実行します。グラフィックファイルに Font Sense データがない場合、プラグインは名前でフォントを識別します。

注意：現在、Font Sense メタデータは、Illustrator または Photoshop からエクスポートされた EPS ファイルでのみ保存できます。

消失フォントの処理

ドキュメントを開いたときに **消失フォント** ダイアログボックスが表示される場合は、まずプラグインで正しいライブラリが選択されていることを確認します。ライブラリを切り替えても問題が解決しない場合は、消失フォントの詳細を確認します。

フォントがない場合は Suitcase Fusion に追加されていない可能性があり、自動で使用可能にはできません。必要なフォントがすべて Suitcase Fusion に追加されていることを確認してから、再度ドキュメントを開きます。

「最適」なフォントの選択

Font Sense メタデータを含むドキュメントを開くときに（そして適切なライブラリが選択されていれば）、消失フォントの問題が発生することはほとんどありません。しかし、正確なフォントが見つからない場合もあります。同じ名前の複数のフォントが使用可能になっている場合、プラグインは「最適」なフォントを自動で使用可能にします（オートアクティベーション環境設定 で **オリジナルが見つからない場合に最適なフォントを選択する** が有効になっていることが前提です）。最適なフォントがドキュメントで使用されると、その情報は Font Sense メタデータに記録され、次回からその情報が使用されます。

プラグインが「最適」なフォントを決定する際には、次が優先されます（重要度の高いものから順に記述）。

- 使用不可のフォントよりも使用可能なフォント（使用可能なシステムフォントを除く）。
- Font Sense メタデータで指定されているタイプ。タイプが指定されていない場合は、OpenType、PostScript、TrueType の順で優先されます。
- Font Sense メタデータで指定されている製造元。製造元が指定されていない場合は、Adobe が他の製造元よりも優先されます。
- 低いバージョンよりも高いバージョン。

注意：Suitcase Fusion で自動で選択する方法は便利ですが、「最適」なフォントが常に正しいフォントであるとは限らないことに留意してください。特に、Suitcase Fusion では、使用不可のフォントよりも使用可能なフォントが優先されることに注意する必要があります。たとえば、Helvetica の TrueType バージョンを常に使用可能にしている場合に、ドキュメントで Helvetica の PostScript バージョンが必要になったとします。この場合 Suitcase Fusion は、ユーザーが Helvetica の他の PostScript バージョンを持っている場合でも、すでに使用可能になっている TrueType バージョンを優先することになります。

自動で使用可能にされたフォントを使用不可にする

アプリケーションを終了すると、そのアプリケーションで自動で使用可能にされたフォントはすべて使用不可になります。この動作を変更して、自動で使用可能にされたフォントを、ドキュメントを閉じたとき、またはコンピュータをシャットダウンしたときに使用不可にできます。

ドキュメントのフォントの確認

ドキュメントで使用されているフォントがすべて使用可能になっていることを確認するには、**文書内フォントの確認** コマンドを使用します。たとえば、InDesign の一部をページにドラッグしたり、QuarkXPress のコンポジションゾーンを更新したりすると、これらのアイテムで使用されているフォントが使用不可になる場合があります。また、これまで使用されたことがないスタイルシートをテキストに適用すると、そこで指定されているフォントが使用不可になる場合があります。

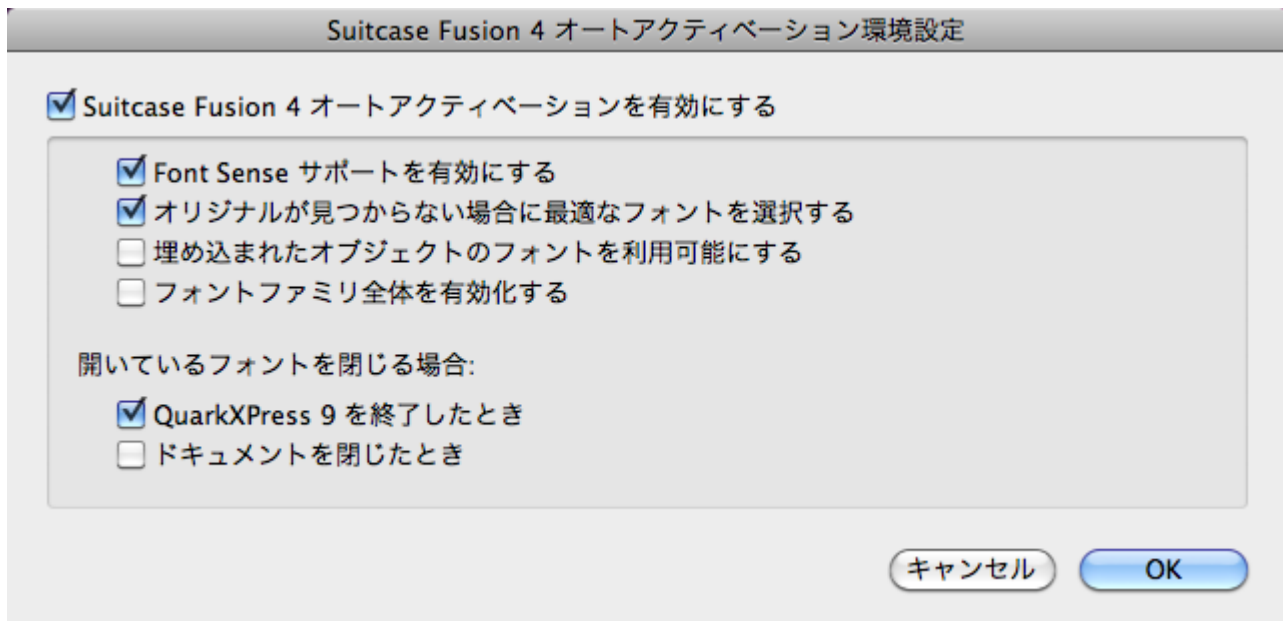
ドキュメントフォントを確認するには：

- Adobe Photoshop の場合： ウィンドウ > Extensions > Extensis 内の 文書内フォントの確認 を使用します。
- Adobe Illustrator、InDesign、InCopy の場合： 書式 > Suitcase Fusion > 文書内フォントの確認 を使用します。
- QuarkXPress の場合： 補助 > Suitcase Fusion > 文書内フォントの確認 を使用します。

オートアクティベーションの環境設定の変更

各プラグインにはそれぞれ、その動作を制御するオートアクティベーション環境設定が備わっています。プラグインの使用を開始する前に、デフォルトの環境設定が自分のワークフローで適切であるか確認してください。確認しないと、プラグインの使用中にデフォルト設定がワークフローに適さないことが分かった場合に設定を変更する必要が生じます。

デフォルトで、プラグインは、ドキュメントが開いたときに Font Sense メタデータに従ってフォントを自動で使用可能にします。その後、ドキュメント内の Font Sense データの詳細を保存し、ドキュメントが閉じるとそれらのフォントを使用不可にします。環境設定は、アプリケーションごと（Photoshop、Illustrator、InDesign、InCopy、QuarkXPress）に個別に変更する必要があります。



プラグインのデフォルト設定を変更するには、**Suitcase Fusion オートアクティベーション環境設定** ダイアログボックスを使用します。

Adobe Photoshop の場合：ファイル > 自動処理 > Extensis で Extensis パネルを開き、**Suitcase Fusion オートアクティベーション環境設定** をクリックします。

Adobe Illustrator、InDesign、InCopy の場合：書式 > Suitcase Fusion > **Suitcase Fusion オートアクティベーション環境設定** を選択します。

QuarkXPress の場合：補助 > Suitcase Fusion > **Suitcase Fusion オートアクティベーション環境設定** を選択します。

オートアクティベーションを有効にする

オートアクティベーションを有効にする プラグイン環境設定が有効になっているときにドキュメントを開くと、プラグインはそのドキュメントをスキャンして、必要なフォントを識別します。プラグインは、ドキュメントの Font Sense データ（ある場合）を参照するか、ドキュメント内で使用されているフォント名を参照してフォ

ントを識別します。 オートアクティベーションを有効にするはデフォルトで選択されています。オートアクティベーションを無効にするには、選択解除します。

Font Sense サポートを有効にする

デフォルトで、プラグインは Font Sense データの詳細をドキュメントに保存し、ドキュメントを開くときにその情報を使用して、フォントを自動で使用可能にします。Font Sense テクノロジーは、フォントの名前やそのタイプ、製造元、バージョンなどの重要なフォント情報を含むメタデータを生成します。高度なフォントオートアクティベーションを実行するには、一般に Font Sense を使用します。Font Sense を無効にするには、**Font Sense サポートを有効にする オプションを無効に**します。

オリジナルが見つからない場合に最適なフォントを選択する

オートアクティベーションを使用しているときにフォントのコンフリクトが発生した場合、プラグインはデフォルトで自動的に「最適」なフォントを選択します。フォントのコンフリクトは、Helvetica または Times など、選択されたライブラリに同じ名前を持つフォントが複数あり、プラグインがドキュメントの作成に使用されたフォントを識別できない場合に発生します。ユーザー自身がコンフリクトを解決する場合は、**オリジナルが見つからない場合に最適なフォントを選択する**を無効にします。

埋め込まれたオブジェクトのフォントを使用可能にする

埋め込まれたオブジェクトのフォントを使用可能にする

「埋め込まれたオブジェクトのフォントを利用可能にする」を有効にすると、プラグインは EPS ドキュメントに保存されている Font Sense メタデータを参照して、フォントを自動で使用可能にします。この機能が無効の場合（デフォルト）でもプラグインはグラフィックのフォントをスキャンしますが、フォントは名前によってのみ識別されます。

注意： 現在、Font Sense メタデータをグラフィックファイルと共に記録できるアプリケーションは Adobe Illustrator の EPS ファイル、またはラスター化されていないテキストレイヤーを持つ Adobe Photoshop PSD ファイルのみをサポートしています。

フォントファミリー全体を使用可能にする

デフォルトで、Suitcase Fusion のオートアクティベーションプラグインは、書体ファミリー内のすべてのフォントをまとめて使用可能にするのではなく、個々のフォントを使用可能にします。たとえば、あるドキュメントで Minion-Bold を使用する必要がある場合、プラグインは Minion 書体ファミリー全体を使用可能にせず、Minion-Bold のみを使用可能にします。

ただし、プラグインの環境設定で **フォントファミリー全体を有効化する** を有効にすると、ファミリー全体を使用可能にできます。この方法は基本フォントがすでに使用可能になっているときに、本文テキストに太字やイタリックを適用する場合などに便利です。Suitcase Fusion のファミリー内にあるすべてのフォントを確認するには、**表示> ファミリによるフォントのグループ化** を選択するか、**Ctrl + E** キーを押します。

開いているフォントを閉じる

自動で使用可能にしたフォントをいつ使用不可にするかを指定できます（アプリケーションを終了したとき、またはドキュメントを閉じたとき）。デフォルトで、プラグインはアプリケーションを終了したときにフォントを使用不可にします。この設定を変更するには、**開いているフォントを閉じる場合** 領域で次のオプションのいずれかを選択します。

- **アプリケーション」を終了したとき**：デザインアプリケーションを終了すると、そのアプリケーションを起動してから自動で使用可能になったすべてのフォントが使用不可になります。これはデフォルトの設定です。
- **ドキュメントを閉じたとき**：ドキュメントを閉じると、自動で使用可能になったフォントが使用不可になります（フォントが他のドキュメントで使用されていない場合）。使用可能なフォントを最小限にする場合や、ほとんどのドキュメントでそれぞれ異なるフォントが使用されている場合には、このオプションを選択します。Suitcase Fusion ではドキュメントを閉じるたびにスキャンを行うので、ドキュメントを頻繁に開いたり閉じたりする場合にこの設定を使用すると、作業に時間がかかる場合があります。

注意：ドキュメントが開いているときにこの設定を変更すると、変更は次に開く（または作成される）ドキュメントから適用されます。

Extensis フォントパネルを利用する

Suitcase Fusion 4 では、Adobe Photoshop CS5~6、Illustrator CS5~6、InDesign CS5~6 用の Extensis フォントパネルが用意されています。各アプリケーション内から Suitcase Fusion ライブラリや Google Font ライブラリへ直接アクセスすることができます。

フォントパネルを使って、デザインアプリケーション内から直接フォントの選択やアクティベーションが可能です。

Adobe Photoshop CS5~6 では、カンパ制作やクライアントへのプレゼンに WebINK フォントを使用することができます。

注意 : Extensis フォントパネルはコンテンツの変更や安全なウェブ接続に Flash を利用しています。Flash Player の最新版をダウンロードするには Adobe 社のウェブサイト (<http://get.adobe.com/flashplayer/>) を参照してください。

Extensis フォントパネルを開く

Adobe Photoshop CS5~6、Illustrator CS5~6、InDesign CS5~6 で Extensis フォントパネルを開くには、**ウィンドウ > Extensions > Extensis** を選択します。

パネルの一番上のドロップダウンメニューから、Suitcase Fusion フォントか Google Web Fonts のどちらを表示するかを選択できます (Photoshop CS5~6 ではさらに WebINK フォントも選択できます)。

他のパネルと同様に、Extensis フォントパネルも移動したり、統合したりグループ化したりすることができます。

WebINK への接続

WebINK フォントを Photoshop CS5~6 ドキュメント内で使用するには、WebINK アカウントにログインする必要があります。

接続するには、自分の WebINK アカウント名とパスワードを入力して **接続する** をクリックします。

接続していない場合や Suitcase Fusion 4 から WebINK の接続を解除した場合は、フォントパネルに WebINK ログインスクリーンが表示されます。

Suitcase Fusion 4 から WebINK に接続し、そのまま接続を解除していなければ、Extensis フォントパネルもその接続を使用します。

WebINK アカウントを作成するには、**接続する** ボタンの下にある **アカウントを作成** をクリックします。

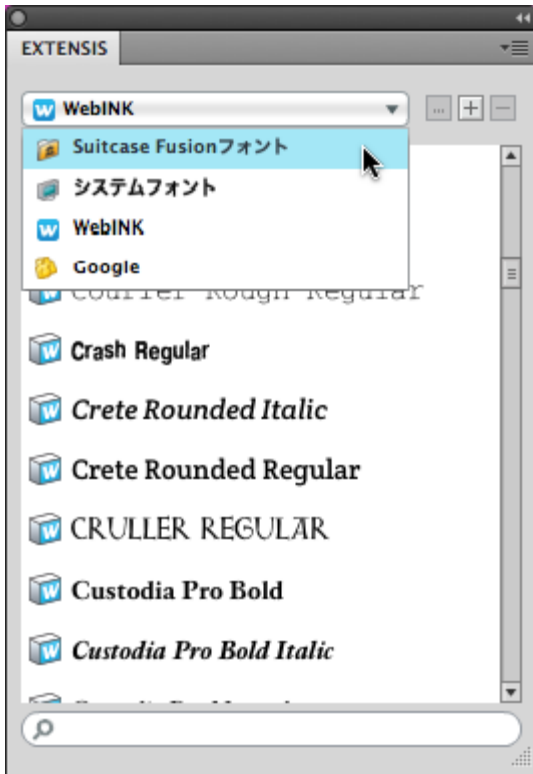
WebINK の接続を解除する場合は、Extensis フォントパネルのフライアウトメニューから **ログアウト** を選択するか、Suitcase Fusion 4 内の **ファイル > WebINK の接続解除** を選択します。

Extensis フォントパネルのフォント適用


Adobe Photoshop CS5~6 では、Extensis フォントパネルのフォントは個別のテキストレイヤーに適用されます。InDesign CS5~6 と Illustrator CS5~6 では、テキストブロックや選択したテキストに適用できます。


Extensis フォントパネルからフォントを適用するには：

1. Extensis フォントパネルを開きます。
2. 使用したいフォントライブラリを選択します（Suitcase Fusion フォントや Google Font など）。



3. 変更したいテキストを選択します。

Photoshop では、**移動ツール**  でテキストレイヤーを選択します。

InDesign や Illustrator では、テキストを選択、または**選択ツール**  でテキストブロックを選択します。

4. Extensis フォントパネル内の使用したいフォントをクリックします。

フォントスタイルの変更

Extensis フォントパネルからフォントを適用すると、現在のセッション内でフォントが使用可能になります。Photoshop の**フォントとスタイル**ドロップダウンメニューからフォントとスタイルを変更することができます。これらのフォントは Suitcase Fusion 4 で使用可能になった他のフォントと同様に使うことができます：


- フォントメニュー**から、選択したテキストにフォントを適用できます。
- フォントサイズメニュー**、または数値入力を使って、選択したテキストに適用したフォントのサイズを変更することができます。
- スタイルメニュー**から、選択したテキストに異なるスタイルを適用することができます。

Photoshop tips

Photoshop CS5~6には、Extensis フォントパネルを使って一般的なテキスト編集を行う場合などに便利なオプションが用意されています。

レイヤーパネル

ドキュメント内でアートワークやテキスト、エフェクト用に複数のレイヤーを持つことのできる Photoshop は柔軟性を持っています。テキストレイヤーを利用する場合にレイヤーパネルでできることは以下の通りです：

- 選択されているレイヤーが一目でわかります（選択されているレイヤーはパネル内でハイライトされています）。
- 別のレイヤーを選択できます（パネル内でクリックします）。
- 選択されているレイヤーがテキストレイヤーであることを確認できます（テキストレイヤーはパネル内でアイコン表示  されています）。

レイヤーパネルを表示するには、**ウィンドウ > レイヤー**を選択します。

バウンディングボックス

オブジェクトの変形やリサイズを行う場合、Photoshop では一般的にバウンディングボックスによる変更が便利ですが、テキストブロックの場合は識別が難しい場合があります。

オブジェクトの周囲に細い黒いラインで、リサイズや変形ができるポイントを持ったオブジェクトの形状を表示することができます。



バウンディングボックスを表示するには、**移動ツール**  を選択し、オプションバーにある **バウンディングボックスを表示** にチェックを入れます。

注意：Photoshop のバウンディングボックスを使って変形すると、ボックス内のテキストもそれに合わせて変更されます。テキストボックスのみを変更したい場合は、**文字ツール**を選択し、ボックス内をクリックします。テキストサイズや形を変更すること無く、テキストボックスのリサイズコントロールが行えます。

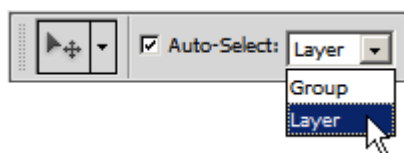


レイヤー自動選択

デフォルトでは、Photoshop ドキュメントウィンドウ内でクリックしても、レイヤー選択には影響ありません。この設定を変更して、**移動ツール**でオブジェクトをクリックするとそのオブジェクトのレイヤーが選択されるようにすることができます。

この機能はレイヤーパネルでいちいちレイヤーを選択する必要がなく、視覚的にレイヤーが選択できるので便利です。

レイヤーの自動選択機能を利用するには、**移動ツール**を選択し、オプションバーにある**自動選択**にチェックを入れ、**自動選択ポップアップメニュー**からレイヤーを選択します。



文字パネル

文字パネルでは、フォント、スタイル、サイズ、カラー、その他選択したテキスト、またはテキストレイヤー全体のテキストに対する設定が変更できます。

Photoshop のオプションパネルには利用可能な文字オプションしか表示されず、また**文字ツール**が選択された時しか表示されないのが、大変便利です。

文字パネルを表示するには、**ウィンドウ > 文字**を選択します。

保守手順

Font Vault のメンテナンス

フォントの追加や整理など、フォントに対して行った作業が失われないようにするには、Font Vault の定期的なバックアップが重要です。

Suitcase Fusion 4 では、複数の Font Vault を作成することができます。

新しい Font Vault の作成

次に挙げる場合を含め、新規 Font Vault の作成が推奨される理由は数多くあります。

- 複数のフォントコレクションがあり、それらのコレクションを別々に管理して、同時に使用されないようにする必要がある場合。
- プロジェクトを整理するためのライブラリの代わりとして、プロジェクトにつき 1 つの Vault を作成して、フォントコレクション間の切り替えを簡単に行うことができます。これにより、すべてのフォントをプロジェクト固有のフォントとして整理して、単一の Font Vault にアーカイブできます。
- 複数のユーザーが特定のフォントセットにアクセスする必要がある場合は、すべてのフォントを単一の Font Vault にまとめることができます。1 人のユーザーがあるプロジェクトでの作業を終了し、他のユーザーに引き渡す必要がある場合は、プロジェクトファイルと一緒に Font Vault を渡すことができます。小規模なチームでは、これらの方法で簡単に一貫性を確保できます。

1 つの Font Vault に複数ユーザーが同時にアクセスすることはできません。この機能が必要な場合は、Universal Type Server などのサーバーベースのフォント管理ツールを使用するのが最善です。

1. **Suitcase Fusion 4 > 環境設定** を選択します。
2. 環境設定ウィンドウの **Type Core** アイコンをクリックします。
3. **新規** をクリックします。
4. 新規 Font Vault を作成したい場所を指定して、**保存** をクリックします。
5. Suitcase Fusion 4 の再起動かキャンセルを選択する画面で、**再起動** をクリックします。
新しい Font Vault が作成され、自動的に選択された状態になります。

1. Suitcase Fusion 4 を起動して **編集 > 環境設定** を選びます。
2. 環境設定ウィンドウの **Type Core** タブをクリックします。
3. **新規** をクリックします。
4. 新規 Font Vault を作成したい場所を指定して、名前を付け、**作成** をクリックします。
5. Suitcase Fusion 4 の再起動かキャンセルを選択する画面で、**再起動** をクリックします。
新しい Font Vault が作成され、自動的に選択された状態になります。

別の Font Vault の選択

Font Vault が複数ある場合や、バックアップを復元して使用する場合は、Vault 間の切り替えが必要です。

別の Font Vault を選択するには：

1. Suitcase Fusion 4 を起動して **編集 > 環境設定** を選択します。
2. 環境設定ウィンドウ内の **Type Core** アイコンをクリックします。
3. **選択してクリック**。
4. 別の Font Vault の保存場所に移動して、**開く** をクリックします。
5. **再起動** をクリック。
新規 Font Vault が作成されると、自動的に現在の Font Vault として設定されます。

Font Vault のバックアップ

Font Vault をバックアップするには、Font Vault をネットワークの任意の場所または外部ディスクドライブにコピーするか、CD または DVD に焼きます。

注意: Font Vault はフォルダです。フォルダ全体を保存するようにして、内容を個別に編集しないでください。

Windows での Font Vault の場所:

Windows XP での Font Vault のデフォルトの場所:

```
C:\Documents and Settings\[username]\Local Settings\Application  
Data\Extensis\Suitcase Fusion 4\
```

Windows Vista または Window 7 での Font Vault のデフォルトの場所:

```
C:\Users\[username]\AppData\Local\Extensis\Suitcase Fusion 4\
```

[username]にはお使いの Windows ユーザー名が入ります。Suitcase Fusion 4 というフォルダを開いて、名前の末尾に .fontvault と付いているフォルダを安全な場所にコピーします。

Font Vault の場所を特定するには以下のステップでも行えます。

1. Suitcase Fusion 4 が起動している場合は、**編集 > 環境設定**を開きます。
2. **環境設定**ウィンドウの **Type Core** タブをクリックします。
3. **Font Vault の場所**に表示されているテキストをコピーします。
テキストをクリックして右クリックし、**すべてを選択**をショートカットメニューから選択します。Ctrl-C を押してテキストをコピーします。
4. **環境設定**ウィンドウの **FMCore を停止**ボタンをクリックします。注意を促すダイアログが開くので **FMCore を停止**をクリックします。
Suitcase Fusion 4 が終了します。
5. Windows の **スタート**ボタンをクリックして、**実行**をクリックします。
6. ステップ 3 でコピーしたテキストを **開く**フィールド内に貼付けます。
7. 貼付けたテキストの最後のバックスラッシュ ¥ キャラクターより後ろをすべて削除してから、**OK** をクリックします。
8. 名前の末尾に .fontvault が付いたフォルダを選択して、安全な場所にコピーします。

注意:

AppData フォルダや Application Data フォルダが見つからない場合、隠しフォルダを表示するようシステムを設定していない可能性があります。非表示ファイルを表示するには、**スタートメニューからコントロールパネル**を開いて、**フォルダオプション**をダブルクリックします。**表示**タブをクリックして、**隠しファイル**、**隠しフォルダー**、および **隠しドライブを表示する**を有効にします。

Extensis社への連絡

Extensis

1800 SW First Avenue, Suite 500
Portland, OR 97201
電話（無料）：(800) 796-9798
電話：(503) 274-2020
Fax：(503) 274-0530
Web: <http://www.extensis.com>

Extensis ヨーロッパ

Suite 18, Newton House
Kings Park Road, Moulton Park
Northampton NN3 6LG, United Kingdom
電話：+44 (0)1604 654 270
Fax: +44 (0)1604 654 268
Email: info@extensis.co.uk

カスタマーサービス

Web:

<http://www.extensis.com/customerservice/>
パッケージ内の案内をご覧ください。

もしくは国内販売代理店までお問い合わせください。

技術サポート

技術サポートにご連絡いただく場合は、次の情報をご用意ください。

- お客様のシリアル番号
- お客様のコンピュータの設定（オペレーティングシステム、メモリ、ハードディスクドライブ、コンフィギュレーションなど）
- ご質問、または問題の説明（何がどういふときに起こったのかを具体的に）
- 電話番号（担当者からお客様への電話を希望される場合）

さらに、表示されたエラー番号またはメッセージおよび、関連するかもしれないと思われるその他の情報を書き留めておいてください。

よくある質問とその答え、トラブルシューティングのヒントについては、次のアドレスから Extensis の Web サイトをご利用ください。<http://www.extensis.com/>

電話によるサポート

北米では、(503) 274-7030 にご連絡ください。

ヨーロッパでは、+44 (0) 1604-654-270 にご連絡ください。

日本国内では、製品パッケージに同梱されている案内をご覧ください。

目次

A

ABC123 プレビュー, 45

Adobe Illustrator, 34, 38, 53, 66, 69, 70

Adobe InDesign, 34, 38, 53, 66, 69

B

Blackletter/Uncial, 61

C

Clarendon, 61

Core, Font Management, 39

E

EPS ファイル, 67, 70

F

Font Sense, 63, 65, 67, 68, 69, 70

Font Vault, 24

バックアップ, 77

メンテナンス, 76

新規作成, 76

選択、別の, 76

有効化, 25

Font Vault のバックアップ, 77

G

Google web fonts, 15, 72, 73

アップデート, 15

使用開始と使用停止, 15

同期, 15

Grotesque sans, 61

H

Humanist sans, 61

M

Modern, 61

O

Oldstyle, 61

Ornamental, 62

Q

QuarkXPress, 34, 38, 53, 66, 69

QuickFind, 42

QuickType プレビュー, 45

S

Sans serif, 62

Script, 62

Serif, 62

Slab serif, 62

Suitcase Fusion 2 のワークフロー, 17

Suitcase Fusion Core, 39

Suitcase Fusion のセットアップ, 24

Suitcase Fusion のセットアップ

クイックスタート, 24

Suitcase Fusion を終了する, 39

Suitcase Fusion を閉じる, 39

Symbol/Pi, 62

T

Transitional, 62

あ

アップデート, 26

アップデートを確認, 26

アプリケーションセット, 37

アンインストール, 27

い

インターフェイス, 18

う

ウェブフォントプラグイン, 23, 72, 73, 74

ウェブプレビュー, 46

お

オートアクティベーションの環境設定, 69

オートアクティベーション環境設定, 67, 68, 70

く

クイックセットアップリスト, 24

クイックマッチ, 44

グリフ表示, 50

こ

ゴミ箱, 27

コラム, 40

さ

サーバーソリューション, 20

し

システムフォント, 26

システムフォントの無効化, 26

す

スーツケースという用語, 13

スクリーンショット, 49

スタイル

カスタムの作成, 60

カスタムの削除, 60

カスタムの編集, 60

デフォルトにリセット, 60

検索, 58

スナップショット, 49

スマートセット, 55

せ

セット, 51

スマート, 55

フォントの削除, 54

階層化, 55

作成, 29, 51

削除, 54

編集, 53

セットの階層化, 55

て

デフォルト

分類, 61

と

ドキュメントセットの作成プラグインコマンド, 53

ドラッグアンドドロップ

フォントの追加, 29

は

バックグラウンドアプリケーション, 39

ふ

ファミリー, 40, 70

デフォルトグループ, 41

再グループ, 41

ファミリーごとにフォントをグループ化する, 38

ファミリーによるフォントのグループ化, 40, 70

フォントについて, 13

フォントのエクスポート, 33, 34

フォントのオートアクティベーション, 63

フォントのステータス, 38

フォントの削除, 33

フォントの収集, 33

フォントの問題, 30

フォントの有効化

自動的, 69

フォントパネル, 18, 40

フォントファミリーの再グループ, 41

フォントメニュー, 38

フォントをエクスポート, 33

フォントをエクスポートする, 28

フォントをグローバルに使用不可にする, 68

フォントを使用可能にする, 35, 36, 38, 70

オートアクティベーション, 67

一時的に, 38

再起動後も, 38

フォントを使用不可にする, 35, 36, 37, 38

フォントを自動的に使用可能にする, 65

フォントを収集する, 28

フォント管理, 12

フォント属性, 57

プラグイン, 63, 67, 68

Font Sense の使用, 70

インストール, 66

セットの作成, 53

ライブラリの選択, 67

開いているフォントを閉じる, 71

最適なフォントを選択, 68, 70

有効化・無効化, 69

プラグイン, ウェブフォント, 23, 72, 73, 74

プレビュー, 45, 49

ABC123, 45

QuickType, 45

エンコード, 45

グリフ表示, 50

テキスト, 45

フロート, 48

印刷, 50

入力, 45

複数サイズ, 45

文章, 45

プレビューパネル, 18

プレビューピクチャ, 49

プレビュー画像, 49

フロートプレビュー, 48

ゆ

ユーザーインターフェイス, 18

ら

ライブラリ, 28
新規作成, 28
選択, 35, 67
ライブラリパネル, 18

り

リセット
デフォルト属性, 60

わ

ワークフロー, 17

漢字

一時フォント, 30
印刷, 50
開いているフォントを閉じる,
71
環境設定
オートアクティベーション,
67, 69, 71
起動アプリケーション, 39

検索, 40, 42, 43, 58

QuickFind, 42

フォント, 43

削除, 27

セット, 54

フォント, 28, 33, 54

フォントを, 33

似たフォントを探す, 44

重複フォント, 31

出力用のフォントを収集, 33

出力用フォントを収集, 34

書体, 38

消失フォント, 31, 68, 70

消失フォントの検索, 31

属性, 57

キーワード, 57

スタイル, 57

製造元, 57

適用と解除, 60

分類, 57

属性パネル, 18

追加

セットとして追加, 29

フォント, 28, 29, 30

フォントを元の場所から, 25

一時的にフォントを, 30

個別に追加, 29

導入事例, 20

ウェブデザイン, 23

フリーランスのグラフィック
デザイナー, 20

印刷会社, 22

広告代理店, 21

出版社, 21

破損フォント, 30

必要なシステムフォント, 26

複数サイズプレビュー, 45

分類, 61

カスタム, 60

デフォルトにリセット, 60

フォントのソート, 59

検索, 58

文書内フォントの確認, 68

文章プレビュー, 45

並べ替え, 40